FAQ目次

001 フィールドの合計値を調べたい 002 重複しているレコードがあるか調べたい 003 hh/mm表記の時刻計算をしたい 004 特定の文字が含まれるデータを抽出したい 005 特定の文字が含まれるデータを抽出したい(マスターファイルを利用する方法) 006 ***円 表記のデータから特定金額以上のデータを抽出したい 007 平均単価と販売単価を比較したい 008 平均単価と販売単価を比較したい(偏差値を利用する方法) **009** 金額の上位●件を抽出したい 010 勤務時間の合計を計算したい 011 重複しているレコードを抽出したい 012 テーブルの中に特定の文字が含まれるレコードを一括で削除したい 013 新規テーブルを作成するときにサブフォルダを作成したい 014 フィールドの先頭文字が数字の場合、先頭の●文字を取得したい 015 日付から四半期区分を作成したい 016 商品別に月ごとの販売実績の月次推移を作成したい 017 前日との売上金額の差を計算したい 018 マスターファイルに登録されている科目コードのデータを抽出したい 019 マスターファイルに登録されていない科目コードのデータを抽出したい 020 スクリプトを変更せずに同じレイアウトのソースファイルをインポートしたい 021 すべてのレコードのカウント件数・平均・合計をテーブルとして出力したい 022 空白のレコードに直前の空白ではないレコードの値を入力したい 023 伝票番号に連番(明細番号)を付与したい 024 商品番号ごとに金額を累計したい 025 作成したスクリプトを一括で実行したい 026 実行したスクリプトのみを記録したログファイル(実施過程の記録)を作成したい 027 同じデータをランダムサンプリングした際に、同じサンプリング結果を出力したい 028 発注データにない検収データを抽出したい 029 実行したコマンドを一部修正して再度実行したい 030 桁数が足りない従業員番号の先頭に"0"を追加して桁数を成型したい 031 利用日の翌月末(申請期限)のフィールドを作成したい 032 複数の金額フィールドで最高値と最安値の価格差を計算したい 033 プロジェクトファイルを整理して作成したい ~インポート編~ 034 プロジェクトファイルを整理して作成したい ~テーブル作成編~

- 035 プロジェクトファイルを整理して作成したい ~スクリプト作成編~
- 036 スクリプトのコメント行を構造化したドキュメントファイルを出力したい

フィールドの合計値を調べたい

◇質問

[金額]フィールドなどの数値フィールドの合計を調べるにはどうすればよいですか?

◇回答

《要約》コマンドで合計値を確認することができます。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《分析》-《要約》を選択します。	対象テーブル	操作画面1
3	「要約キーフィールド」で任意のフィールドを選択します。 ※《要約》コマンドは、キーフィールドの値ごとに数値を集計する 機能です。キーフィールドは一覧からどのフィールドを選択してい ただいても結構ですが、なるべく値の種類が少ないフィールドを 選択することを推奨します。	要約コマンド	操作画面2
4	「小計フィールド」で、合計値を確認したい数値フィールドを選択 します。	要約コマンド	操作画面2
5	「出力先」で「画面」を選択し、《実行》ボタンをクリックします。	要約コマンド	操作画面2
6	《要約》の結果(集計結果)の表が画面に表示されます。 表の最下部に、フィールドの合計値が表示されます。	要約画面	操作画面3

🛷 THUMGY Data	
ファイル ヘルプ <u>ホームへ 2言語</u> 設定	
:2) ェクト インポート 加工 分析 サンプリング	
要約 用 クロス集計 ら 年齢調べ	📮 エクスポート
FAQ	🖌 🖬 C 🔳
▶ 🗖 スクリプト	
🔺 🛅 ログ	
FAQ.	
▶ 🗖 ソースファイル	
▶ 🛅 テーブル	
■ エクスポート	

■操作画面2

🥢 要約	5								- 0	Х
(2	名: FAO001									
				/						
要終	コキーフィールド	フィールド選択	小計	フィールド	フィールド選択	その	他出力フィールド		フィールド選択	
1	フィールド名	データ型		フィールド名	データ型		フィールド名	データ型		
	売上番号	С		数量	Ν		売上番号	С		
	計上日	D	1	仕入単価	Ν		計上日	D		
	商品No	С	E	販売単価	N		商品No	С		
	数量	Ν	1	金額	Ν		数量	Ν		
	仕入単価	N					仕入単価	Ν		
	販売単価	Ν					販売単価	Ν		
	金額	N					金額	N		
	営業担当者	С					営業担当者	С		
1	入力担当者	С					入力担当者	С		
	入力日時	D					入力日時	D		
ーオプ	บาบ									
	✓ □ 平均値·最大値·最小	値	準偏差	・合計割合(%)	── 件数割合(%)					
0										
出力	〕先 IF条件	⊧≡₊								
0	画面									
0	テーブル									
	保ィ	字先								
								キャンセル	実行	

	日時	2024,	2024/05/30 16:06:22										
Ę	テーブル	-ブル FAQ001											
コマンド SUMMARIZE ON [入力担当者] SUBTOTAL [金額] OTHER TO SCRE													
出	力件数	3件											
入力担当者			合計_金額	カウント件数									
1	<u>36</u>		15,539,110	69									
2	<u>47</u>		6,571,520	53									
3 <u>58</u>			5 11,707,030	54									
合計			33,817,660	176									

重複しているレコードがあるか調べたい

◇質問

重複しているレコードがあるかどうかを調べるにはどうすればよいですか?

◇回答

《要約》コマンドで確認することができます。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《分析》-《要約》を選択します。	対象テーブル	操作画面1
3	「要約キーフィールド」ですべてのフィールドを選択します。 ※「小計フィールド」、「その他出力フィールド」、「オプション」は何 も選択しないでください。	要約コマンド	操作画面2
4	「出力先」で「テーブル」を選択、保存先を指定し《実行》ボタン をクリックします。	要約コマンド	—
5	要約の結果(集計結果)の[カウント件数]フィールドが追加さ れたテーブルが出力されます。	要約テーブル	操作画面3
6	《加工》-《抽出》を選択します。	ナビゲーター画面	—
8	条件式(IF 条件)の = +をクリックし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	—
8	[カウント件数] <> 1(カウント件数が1以外)の条件式を 入力します。	式ビルダー	操作画面4
9	保存先を指定し、「実行」のボタンをクリックします。	抽出コマンド	

🛷 THUMGY Data	
ファイル ヘルプ <u>ホームへ 2語</u> 設定	
こ(2) エクト インポート 加工 分析 サンプリング	
	٢
FAQ 🖍 📋 C	E
▶ 🗖 スクリプト	
▲ 🛅 ログ	
FAQ	
▶ 🔁 ソースファイル	F
▶ 🗖 テーブル	⊩
□ エクスポート	

■操作画面2

7

🥠 要約	5										-		×
3	[,] 名: FAQ002												
要維	りキーフィールド		フィールド選択	小計	フィールド		フィールド選択	₹のf	也出力フィールド		7	ィールド選	訳
	フィールド名	データ型			フィールド名	データ型			フィールド名	データ	型		
1	売上番号	С			数量	N			売上番号	C			
2	計上日	D			仕入単価	N			計上日	D			
3	商品No	С			販売単価	N			商品No	С			
4	数量	Ν			金額	N			数量	Ν			
5	仕入単価	N							仕入単価	N			
6	販売単価	Ν							販売単価	Ν			
7	金額	Ν							金額	Ν			
8	営業担当者	С							営業担当者	С			
9	入力担当者	С							入力担当者	С			
10	入力日時	D							入力日時	D			
				1									

■操作画面3

Ⅲ FAQ002_要約 ×

											5
	売上番号	計上日	商品No	数量	仕入単価	販売単価	金額	営業担当者	入力担当者	入力日時	カウント件数
1	11669	2017/07/02	30602002	71	227	780	55,380	45	47	2017/07/02 08:43:00	1
2	11670	2017/07/04	30604001	21	1,563	5,000	105,000	52	58	2017/07/04 15:58:00	1
3	11671	2017/07/05	30201001	3	99	400	1,200	21	36	2017/07/05 14:47:00	1
4	11672	2017/07/06	30301012	1	1,628	6,000	6,000	45	47	2017/07/06 14:41:00	1
5	11673	2017/07/08	30103003	32	177	800	25,600	52	58	2017/07/08 13:34:00	1
6	11674	2017/07/09	30601002	977	565	1,850	1,807,450	24	36	2017/07/09 14:41:00	2
7	11675	2017/07/09	30602001	589	363	880	518,320	45	47	2017/07/09 12:24:00	1

■操作画面4

※ 式ビルダー	
6	
式の設定	
[カウント件数] <> 1	
	-

【スクリプト構文】

//データの要約 OPEN "FAQ002" SUMMARIZE ON ALLFIELDS SUBTOTAL OTHER TO "FAQ002_要約" OPEN
//[カウント件数]1以外のデータを抽出 OPEN "FAQ002_要約" EXTRACT ALLFIELDS IF [カウント件数] <> 1 TO "FAQ002_抽出" OPEN

hh/mm表記の時刻計算をしたい

◇質問

hh/mm表記の時刻計算をするにはどうすればよいですか?

◇回答

〈SUBSTR関数〉を利用することにより計算することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ

・加工後テーブルのイメージ

	開始時刻	終了時刻]
1	0900	1800	_
2	0830	1830	
3	1300	2100	
4	0800	1200]

		開始時刻型変換_コロン追加	終了時刻型変換_コロン追加	時刻計算
Ν	1	09:00:00	18:00:00	09:00:00
	2	08:30:00	18:30:00	10:00:00
V	3	13:00:00	21:00:00	08:00:00
	4	08:00:00	12:00:00	04:00:00

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	
2	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	_
3	計算対象データの末尾に、"00"の文字を付加したフィールドを 「文字型」で追加します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
4	③で追加したフィールドに、〈SUBSTR関数〉を利用し":"を付 加したフィールドを「日付時刻型」で追加します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2
5	④で作成したフィールドを利用し、時刻計算をしたフィールドを 「日付時刻型」で追加します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面3

テーブル名	FAQ003
フィールド名 開始時刻00追加	
データ型 文字型	•
3式設定	•
初期値 [開始時刻] + "00"	

テーブル名	FAQ003
フィールド名 終了時刻00追加	
データ型 文字型	·
3 北設定	•
初期値 [終了時刻] + "00"	

//hh/mmに"00"を追加する
OPEN "FAQ003"
DEFINE FIELD [開始時刻00追加] C POSITION 3 COMPUTED
[開始時刻] + "00"
DEFINE FIELD [終了時刻00追加] C POSITION 4 COMPUTED
[終了時刻] + "00"
//":"追加し日付時刻型へ変換する
DEFINE FIELD [開始時刻型変換_コロン追加] D PIC "hh:mm:ss" POSITION 6 COMPUTED
SUBSTR([開始時刻00追加],1,2) + ":" + SUBSTR([開始時刻00追加],3,2) + ":" + SUBSTR([開始時刻00追加],5,2)
DEFINE FIELD [終了時刻型変換_コロン追加] D PIC "hh:mm:ss" POSITION 7 COMPUTED
SUBSTR([終了時刻00追加],1,2) + ":" + SUBSTR([終了時刻00追加],3,2) + ":" + SUBSTR([終了

テーブル名	FAQ003	
フィールド名 時刻計算		
データ型 日付時刻型		•
■ 式設定 5 nm:ss		•
初期値 [終了時刻型変換_コロ	ン追加] - [開始時刻型変換_]	コロン追加」

■操作画面:	3
--------	---

【スクリプト構文】

時刻00追加],5,2)

■操作画面2		
	テーブル名 <u>FAQ003</u>	
	フィールド名	
テーブル名 <u>FAQ003</u>	- 終了時刻型変換_コロン追加	
フィールド名 開始時刻型変換_コロン追加	データ型 日付時刻型	•
データ型 日付時刻型	**	•
➡式設定 <mark> 4</mark> mm:ss	初期值	了時刻00追加],3,2) + ":" + SUBSTR([終了時刻00追加],5,2)
- 初期値 SUBSTR([開始時刻00追加],1,2) +	":" + SUBSTR([開始時刻00追加],3,2) + ":" + SUBSTR([開始時刻00追加],5,2)

特定の文字が含まれるデータを抽出したい

◇質問

複数の特定の文字が含まれるデータを抽出するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

〈MATCH関数〉を利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

適用欄に"ホテル","タクシー"の文字が含まれるデータを抽出

・加工対象テーブルのイメージ

	社員番号	金額	適用
1	AAA	550	電車
2	BBB	9,000	ホテル代金
3	CCC	700	電車
4	DDD	650	電車
5	EEE	1,200	タクシー代
6	FFF	8,000	ホテル料金
7	GGG	400	電車

・加工後テーブルのイメージ

	社員番号	金額	適用
1	BBB	9,000	ホテル代金
2	EEE	1,200	タクシー代
3	FFF	8,000	ホテル料金

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	
2	対象のテーブルを開き、メニューの《加工》-《抽出》を選択します。	対象テーブル	操作画面1
3	抽出したいフィールドを選択します。	抽出コマンド	操作画面2
4	条件式(IF 条件)の =+ をクリックし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	操作画面2
(5)	〈MATCH関数〉をクリックし"検索したい文字列"と[検索対象] フィールドを入力します。 複数の文字を検索したい場合はカンマ(,)で区切ります。	式ビルダー	操作画面3
6	保存先を指定し、「実行」のボタンをクリックします。	抽出コマンド	

🛷 Thumg	GY Data				
ファイル	ヘルプ 2	<u>-4</u> ^	言語設	定	
2 ジェクト	インポート加加	I 分	析	サンプリング	
€ 抽出	■ 結合	計統	合	圖 新規フィールド追加	

■操作画面2

4	抽出		
(3 ≀	名 FAQ004	
1	抽出	フィールド	
		フィールド名	データ型
	1	社員番号	C
	2	金額	Ν
Ċ	3	適用	с
	<u>レ</u> IF 条件	· =+	

■操作画面3

(例では、[適用]フィールドに、"タクシー"と"ホテル"の文字が含まれるデータを抽出しています。)

	🥠 式ビルダー								- 0	×
	式の設定					関数の指定				
						A	絞り込み			
						v	関数名 AGE	関数の説明 指定された日付を指定された基準	をしていたい しゅうしん しゅうしゅう しゅうしん しゅうしゅう しゅうしん しゅうしん しゅうしゅう しゅうしん しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅう しゅうしゅう しゅう	
	使用可能なフィールド		使用可能な演	使用可能な演算子			AT BETWEEN	文字値における部分文字列の特 指定された値が範囲内にあるかど	定の出現の開始位置。 うかを示す論理値を返	をうしま
	フィールド名 社員番号	データ型 C	=	<>	AND		DAY	指定された日付または日付時刻が	いら日付を抽出し、それ	
	金額	N	<	>	OR		FIND HOUR	指定された文字列が、特定のノイ 指定された時刻または日付時刻が	ールド中またはレコード3 から時間を抽出し、それ	至1 」を
	11.751		<=	>=	NOT			小数点以下を切り捨てて整数にし 指定した文字列やフィールドを全角	/ます。 	
							МАТСН	文字列に含まれている文字数を返 指定した文字列(複数可)が検	<u>えします。</u> 塗索対象フィールドまた(t4
			+				MINUTE	指定された時刻または日付時刻	数を抽出し、それ	
🛷 Match								2分母で割り算し すまたは日付時刻)(剰余)を返し を抽出し、それを	ょ 数 2
MATCH(検	索する文字列 , 大小文	 」,検索対象フィールド) 						ティング システム 指定すれた文字信	日付時刻データ 現れる回数を数え	型7
検索する文字列				検索し	たい文字列を	指定しま	す。複数指知	定可能です。	-	
大小文字区別 5				⊻ 0:⊠	別しない 1:	区別する	3			
検索対象	フィールド	[適用]		> 検索	対象とするフィー	ルドを指	定します。省	略可能		

【スクリプト構文】



特定の文字が含まれるデータを抽出したい(マスターファイルを利用する方法)

◇質問

マスターファイルを利用して、複数の特定の文字が含まれるデータを抽出するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

〈MATCH関数〉を利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

適用欄に"ホテル","タクシー"の文字が含まれるデータを抽出

・加工対象テーブルのイメージ

川 伐丁一 ノルのイメーン	ከበ	工後5	ブル	のイメ	ージ
-----------------	----	-----	----	-----	----

	社員番号	金額	適用
1	AAA	550	電車
2	BBB	9,000	ホテル代金
3	CCC	700	電車
4	DDD	650	電車
5	EEE	1,200	タクシー代
6	FFF	8,000	ホテル料金
7	GGG	400	電車

		社員番号	金額	適用
	1	BBB	9,000	ホテル代金
)	2	EEE	1,200	タクシー代
	3	FFF	8,000	ホテル料金

【マスターファイルの作成】

・マスターファイルのイメージ(excelで作成する)

結合キー	検索文字列	
1	タクシー,ホテル	

▶結合キー

・任意の値を設定します。

(※結合キーに設定する値の条件はありませんが、加工過程で結合キーを入力する工程があるため、平易な値を 設定することを推奨します。)

▶検索文字列

- ・検索したい文字列を記載します。
- ・複数の文字を検索したい場合はカンマ(,)で区切ります。
- ・検索する文字を追加したい場合、追加したい文字をマスターファイルにカンマ(,)区切りで入力することにより、 スクリプトを変更せずに処理が実行できます。

例)"会食"を検索する文字に追加する場合

会筤

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	マスターファイルをプロジェクトフォルダ内の「03_source」へ格納 します。	プロジェクトファイル	_
2	マスターファイルをインポートします。	インポート画面	操作画面1
3	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	
4	加工対象のテーブルに[結合キー]フィールド追加します。 マスターファイルの[結合キー]と同じデータ型を設定し、同じ値を 「初期値」へ入力します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
5	メニューの《加工》-《結合》を選択します。	対象テーブル	—
6	「副テーブル」は②でインポートしたマスターファイルを選択します。	結合コマンド	操作画面2
7	結合パターンを「(1)すべての主レコードとキーが一致する副レ コード」に設定し、[結合キー]をキーフィールドに設定します。	結合コマンド	操作画面2
8	主テーブルの出力フィールドと副テーブルの出力フィールドを選択 し「実行」をクリックします。 (※主テーブルの出力フィールドには、少なくとも検索対象となる フィールドを選択し、副テーブルの出力フィールドは検索したい文 字列が含まれるフィールドを選択してください。)	結合コマンド	操作画面2
9	⑧で作成したテーブル画面を開き、メニューの《加工》-《抽出》 を選択します。	ナビゲーター画面	
10	条件式(IF 条件)の 三+ をクリックし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	_
1	〈MATCH関数〉をクリックし、「検索する文字列」は検索したい 文字列が記載されたフィールドを選択し、「検索対象フィールド」 は検索対象のフィールドを選択します。	式ビルダー	操作画面3
(12)	保存先を指定し、「実行」のボタンをクリックします。	抽出コマンド	

2			フィールド名
	文字型 ▼	文字型	結合キ−
1	結合キー	検索文字列	 データ型
2	1	タクシー,ホテル	文字型 •
			書式設定 ◀ 初期 伝
			 707 70 10 "1"



■操作画面2

· (7)					– 🗆 X
結合パターン ● (1)すべての主レコードとキーが一致す	する副レコード		6		
主テーブル名: FAQ005			副テーブル名: FAQ005_マスタファイル		~
主キーフィールド		フィールド選択	1-1/1		フィールド選択
🔀 フィールド名	データ型			データ型	
社員番号	С		1 結合キー	C	
之額	N		検索文字列	С	
「日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日	С				
1 結合キー	С)		
主テーブルの出力フィールド		フィールド選択	副テーブルの出力フィールド		フィールド選択
🔽 フィールド名	データ型		「マールド名」	データ型	
し、上員番号	С		● 拾キ-	С	
と数	N		1 検索文字列	С	
3 適用	С				

■操作画面3

(例では、[適用]フィールドに[検索文字列]フィールドの文字が含まれるデータを抽出)

🛷 MATCH				
MATCH(検索する文字列 , 大小	い3 11 , 検索対象フィールド)	W MATCH		
検索する文字列		✓ MATCH(検索する文字列 , 大小	、文字 11 検索対象フィールド)	
大小文字区別	[社員番号] [金額] [適用]	検索する文字列	検索文字列]	→ 検索したい文字列を指定します。複数指定可能です。
検索対象フィールド	[結合キ-] [検索文字列]	大小文字区別	1	∨ 0:区別しない 1:区別する
		検索対象フィールド	適用]	✓ 検索対象とするフィールドを指定します。省略可能

【スクリプト構文】

//マスターファイルのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ005_マスターファイル" FROM "FAQ_マスターファイル.xlsx" TABLE "FAQ005" STARTLINE 1 FIELD [結合キー] C FIELD [検索文字列] C
//結合キーの追加 OPEN "FAQ004" DEFINE FIELD [結合キー] C POSITION 3 COMPUTED "1"
//マスターファイルの結合 OPEN "FAQ005_マスターファイル" SECONDARY JOIN PKEY [結合キー] FIELDS ALLFIELDS SKEY [結合キー] WITH [検索文字列] PRIMARY TO "FAQ005_結合" OPEN
//「摘要」フィールドに[検索文字列]フィールドの文字列が含まれるデータを抽出 OPEN "FAQ005_結合" EXTRACT FIELDS [社員番号] [金額] [適用] IF MATCH([適用],[検索文字列],0) TO "FAQ005_抽 出" OPEN

***円表記のデータから特定金額以上のデータを抽出したい

◇質問

***円表記のデータから特定金額以上のデータを抽出するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

〈OMIT関数〉を利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

金額10,000円以上のデータを抽出

・加工対象テーブルのイメージ

	社員番号	金額	適用
1	AAA	500円	電車
2	BBB	1,000円	タクシー
3	ССС	2,000円	タクシー
4	DDD	20,000円	会食
5	EEE	1,500円	タクシー
6	FFF	700円	電車
7	GGG	10,000円	ホテル

・加工後テーブルのイメージ

N		社員番号	金額	円を削除した金額	適用
`)	1	DDD	20,000円	20,000	会食
1	2	GGG	10,000円	10,000	ホテル

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面を右クリックして、テーブルメンテナンス画面 を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	_
3	「データ型」は整数型を選択し、初期値の <i>〓</i> +をクリックし、式ビ ルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
4	〈OMIT関数〉を選択し、「削除する値」には削除したい文字列 ("円")を入力し、「削除対象フィールド」は削除対象となるフィー ルドを選択します。	式ビルダー	操作画面2
5	フィールド追加後、「保存」をクリックしデータを保存します。	新規フィールド追加コマンド	—
6	メニューの《加工》-《抽出》を選択します。	ナビゲーター画面	—
7	抽出したいフィールドを選択し、条件式(IF 条件)の =+ をクリッ クし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	
8	抽出条件を入力します。	式ビルダー	操作画面3
9	保存先を指定し、「実行」のボタンをクリックします。	抽出コマンド	_

■操作画面1

7

🛷 追加フィールド編集	-	×
テーブル名 <u>FAQ006</u>		
- マールド名 3 ちしたフィールド		
- データ型 数値型(整数)		
書式設定 桁区切り有り	3	
初期值	=+	

■操作画面2

4	W OMIT				—	×
	(4)削除対象フィールド,削除す	る値,大小文字区別)				
	削除対象フィールド	[金額]	~	削除対象とする文字列やフィールド名を指定します。		
	削除する値	"円"	~	削除したい値を指定します。複数指定可能です。		
	大小文字区別	0	~	0:区別しない 1:区別する		

■操作画面3

(例では、[円を削除した金額]が10,000以上のデータを抽出)

〃 式ビルダー					
8					
式の設定					
[円を除去した金額] >= 1000	0				
					-
					•
使用可能なフィールド		使用可能な演	算子		
使用可能なフィールド フィールド名	データ型	使用可能な演	算子		
使用可能なフィールド フィールド名 社員番号	データ型 C	使用可能な演	算子 <>	AND	
使用可能なフィールド フィールド名 社員番号 金額	データ型 C C	使用可能な演 =	算子 <>	AND	

【スクリプト構文】

//"円"を削除した金額フィールドの追加 OPEN "FAQ006" DEFINE FIELD [円を削除した金額] N PIC "True" POSITION 2 COMPUTED OMIT([金額],"円",0)
//[円を削除した金額]が10,000以上のデータを抽出 OPEN "FAQ006" EXTRACT ALLFIELDS IF [円を削除した金額] >= 10000 TO "FAQ006_抽出" OPEN

販売単価と平均販売単価を比較したい

◇質問

販売単価を平均販売単価と比較するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

《要約》コマンドと《結合》コマンドを利用することにより比較することができます。

【データ加工処理イメージ】



	伝票番号	商品名	販売単価
1	100001	AAA	1,000
2	100002	AAA	1,500
3	100003	AAA	1,000
4	100004	AAA	1,000
5	100005	BBB	10,000
6	100006	BBB	12,000
7	100007	BBB	10,000
8	100008	BBB	10,000

・加工後テーブルのイメージ

	伝票番号	商品名	販売単価	平均_販売単価	平均販売単価との差額
1	100001	AAA	1,000	1,125	-125.0
2	100002	AAA	1,500	1,125	375.0
3	100003	AAA	1,000	1,125	-125.0
4	100004	AAA	1,000	1,125	-125.0
5	100005	BBB	10,000	10,500	-500.0
6	100006	BBB	12,000	10,500	1,500.0
7	100007	BBB	10,000	10,500	-500.0
8	100008	BBB	10,000	10,500	-500.0

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	,ナビゲーター画面	—
2	メニューの《分析》-《要約》を選択します。	対象テーブル	—
3	「要約キーフィールド」で平均を計算する基準となるフィールドを 選択し、「小計フィールド」で計算対象のフィールド(数値型)を 選択します。	要約コマンド	操作画面1
4	以下の設定をして、保存先にテーブル名を入力して「実行」をク リックします。 ・オプション : 「平均・最大値・最小値」を選択 ・出力先 : 「テーブル」を選択	要約コマンド	操作画面1
(5)	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
6	メニューの《加工》-《結合》を選択します。	対象テーブル	—
7	「副テーブル」に④で作成したテーブルを選択します。	結合コマンド	操作画面2
8	結合パターンを「(1)すべての主レコードとキーが一致する副レ コード」に設定し、平均を計算する基準となるフィールドを主 キーフィールドおよび副キーフィールドに設定します。	結合コマンド	操作画面2
9	主テーブルはすべてのフィールドを出力フィールドに選択し、副 テーブルは[平均]フィールドを出力フィールドに選択して、「実 行」をクリックします。	結合コマンド	操作画面2

7

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
10	⑨で作成したデータを開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	_
(11)	初期値の三+をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	—
12	販売単価と平均販売単価の差額を計算したフィールドを追加 します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面3

■操作画面1

(例では、[商品名]ごとに、[販売単価]の「平均値・最大値・最小値」を要約したテーブルを出力している。)

🛷 要約							– U ×
3	名: FAQ007 = - 7ィールド フィールド名	フィールド データ型		71- J デー9型	水選択 その他出力フィールド	: データ型	フィールド選択
	伝票番号	C	1 販売単価	N	伝票番号	С	
1	商品名	С			商品名	С	
	販売単価	N			販売単価	N	
 (4) (オプショ (由力学) (回) ((u) <li< th=""><th>aン 2 平均値・最大(た 画面 ブル</th><th>值·最小值 IF条件 ■+ 保存先 FAQ007_要約</th><th>□ 標準偏差·合計割合(%)</th><th>□ 件数</th><th>割合(%)</th><th></th><th>4</th></li<>	aン 2 平均値・最大(た 画面 ブル	值·最小值 IF条件 ■ + 保存先 FAQ007_要約	□ 標準偏差·合計割合(%)	□ 件数	割合(%)		4
		(4			キャンセル	実行
	商品名	合計_販売単価	平均_販売単価	最小_販売単価	最大_販売単価	カウント件数	
1	AAA	4,500	1,125.000	1,000	1,500	4	
2	BBB	42,000	10,500.000	10,000	12,000	4	

* 8							-		<
結合	パターン								
۲	(1)すべての主レコードとキーが一致する副レコー	ř		7)				
主テ	- ル名: FAQ007			副テー	ブル名: FAQ007_要約			Ŷ	
主	ーフィールド		フィールド選択	0	フィールド		フィー	・ルド選択	
	フィールド名	データ型		O	フィールド名	データ型			
	し 伝票番号	С		1	商品名	С			
1	商品名	С			合計_販売単価	N			
	販売単価	N			平均_販売単価	F			
				9	最小_販売単価	N			
	/			$\underline{\bigcirc}$					
主 ;	ーブルの出力フィールド		フィールド選択	副テ・	-ブルの出力フィールド		フィー	・ルド選択	
	フィールド名	データ型			フィールド名	データ型			
1	伝票番号	с			商品名	С			
2	商品名	С			合計_販売単価	N			
3	販売単価	N		1	平均_販売単価	F			
					最小 販売単価	N			

FAQ007

■操作画面3

〃 追加フィールド編集	
テーブル名 <u>FAQ007 結合</u>	
フィールド名 平均販売単価との差額	
データ型 数値型(整数)	•
- 書式設定 12 「下区切り有り	•
│初期値 [販売単価] - [平均_販売単価]	=

【スクリプト構文】

//[商品名]ごとに平均値・最大値・最小値を含んだ要約テーブルを作成
SUMMARIZE ON [商品名] SUBTOTAL ALLFIELDS OTHER TO "FAQ007_要約" OPEN STATISTICS
//元のデータと要約フィールドを結合
OPEN "FAQ007"
OPEN "FAQ007_要約" SECONDARY
JOIN PKEY [商品名] FIELDS ALLFIELDS SKEY [商品名] WITH [平均_販売単価] PRIMARY TO
"FAQ007_結合" OPEN
//販売単価と平均販売単価の差額を計算したフィールドを追加
OPEN "FAQ007_結合"
DEFINE FIELD [平均販売単価との差額] F DEC 1 PIC "True" POSITION 4 COMPUTED
[販売単価] - [平均_販売単価]

販売単価と平均単価を比較したい(偏差値を利用する方法)

◇質問

偏差値を利用して販売単価を平均販売単価と比較するにはどうすればよいでしょうか?

\bigcirc 回答

《要約》コマンドと《結合》コマンドを利用することにより比較することができます。

【データ加工処理イメージ】



	伝票番号	商品名	販売単価
1	100001	AAA	900
2	100002	AAA	1,600
3	100003	AAA	800
4	100004	AAA	700
5	100005	BBB	9,600
6	100006	BBB	11,000
7	100007	BBB	8,000
8	100008	BBB	7,400

・加工後テーブルのイメージ

	伝票番号	商品名	販売単価	平均_販売単価	偏差値
1	100001	AAA	900	1,000	47.2
2	100002	AAA	1,600	1,000	67.0
3	100003	AAA	800	1,000	44.3
4	100004	AAA	700	1,000	41.5
5	100005	BBB	9,600	9,000	54.3
6	100006	BBB	11,000	9,000	64.2
7	100007	BBB	8,000	9,000	42.9
8	100008	BBB	7,400	9,000	38.

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	
2	メニューの《分析》-《要約》を選択します。	対象テーブル	
3	「要約キーフィールド」で平均を計算する基準となるフィールドを 選択し、「小計フィールド」で計算対象のフィールド(数値型)を 選択します。	要約コマンド	操作画面1
4	以下の設定をして、保存先にテーブル名を入力して「実行」をク リックします。 ・オプション :「平均・最大値・最小値」「標準偏差・合計割合 (%)」を選択 ・出力先 :「テーブル」を選択	要約コマンド	操作画面1
(5)	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	
6	メニューの《加工》-《結合》を選択します。	対象テーブル	—
$\overline{\mathcal{O}}$	「副テーブル」に④で作成したテーブルを選択します。	結合コマンド	操作画面2
8	結合パターンを「(1)すべての主レコードとキーが一致する副レ コード」に設定し、平均を計算する基準となるフィールドを主 キーフィールドおよび副キーフィールドに設定します。	結合コマンド	操作画面2
9	主テーブルはすべてのフィールドを出力フィールドに選択し、副 テーブルは[平均]フィールドを出力フィールドに選択して、「実 行」をクリックします。	結合コマンド	操作画面2

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
10	⑨で作成したデータを開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	—
(11)	初期値の 三+ をクリックし式ビルダーを開きます	新規フィールド追加コマンド	_
12	偏差値を計算したフィールドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面3

■操作画面1

(例では、[商品名]ごとに、[販売単価]の「平均値・最大値・最小値」「標準偏差・合計割合」を要約したテーブ ルを出力している。)

🥢 要	約							- 0	×
. .	ブル名: FAQ00;	8							
C	-フィールド	-	フィールド選択	3 1-11/F		フィールド選択 その	0他出力フィールド	フィールド選択	Į į
	1 フィールド名	データ	型	🛃 フィールド名	データ	뽀	レ フィールド名	データ型	
	伝票番号	C		1 販売単価	Ν		伝票番号	C	
1	商品名	С					商品名	С	
IL	販売単価	N					販売単価	N	
(4	9								
77	Ĵション								
	🗹 平均値	·最大值·最小值	✓ 標	準偏差・合計割合(%)		□ 件数割合(%)			
- H	力先	IF条件	L						
		1.21	T						
(4									
Č									
	テーフル	保存先	FAQ008_要約					4	
(4). 実行									
	商品名	合計_販売単価	平均_販売単価	最小_販売単価	最大_販売単価	標準偏差_販売単価	合計割合_販売単価	カウント件数	
1	AAA	4,500	1,125	1,000	1,500	216.506	9.677	4	
2	BBB	42,000	10,500	10,000	12,000	866.025	90.323	4	

* 8)						- 0	×
結合	パターン							
۲	● (1)すべての主レコードとキーが一致する副レコード)			
主テー	ブル名: FAQ008			副テ-	ブル名: FAQ008_要約			~
主キ	-フィールド		フィールド選択	0	ィールド		フィールド運	訳
Q	フィールド名	データ型		0	フィールド名	データ型		
	云票番号	с		1	商品名	С		
1	商品名	с			合計_販売単価	N		
	販売単価	N			平均_販売単価	N		
9)			9	最小_販売単価	Ν		
主テ	ーブルの出力フィールド		フィールド選択	副テ・	ーブルの出力フィールド		フィールド運	訳
	フィールド名	データ型			フィールド名	データ型		
1	伝票番号	С		1	平均_販売単価	N		
2	商品名	С			最小_販売単価	N		
3	販売単価	N			最大_販売単価	N		
				2	標準偏差_販売単価	F		

■操作画面3

≪ 追加フィールド編集		-	
テーブル名 FAQ008 結合			
フィールド名 偏差値			
データ型	小数点以下の桁数		
	1111		
桁区切り有り・			ך
	* 10 - 50	=,	
	10+50	-+	J
12 手式			
適用順	条件	式または値]
追加 [標準偏差_販売単価] = 0	= + sd	F.	+
「偏差値の計算は割	うな合むため、分母(販売単価の煙準値	 冨差)が0の場合の	冬件式

偏差値の計算は割算を含むため、分母(販売単価の標準偏差)が0の場合の条件式を入力します。 販売単価の標準偏差が0すなわち偏差がないため、「式または値」に50(偏差値50)を入力します。

【スクリプト構文】

//[商品名]ごとに平均値・最大値・最小値・標準偏差を含んだ要約テーブルを作成 OPEN "FAQ008" SUMMARIZE ON [商品名] SUBTOTAL ALLFIELDS OTHER TO "FAQ008_要約" OPEN STATISTICS STDEV
//元のデータと要約フィールドを結合 OPEN "FAQ008" OPEN "FAQ008_要約" SECONDARY JOIN PKEY [商品名] FIELDS ALLFIELDS SKEY [商品名] WITH [平均_販売単価] [標準偏差_販売単 価] PRIMARY TO "FAQ008_標準偏差結合" OPEN
//偏差値を計算したフィールドを追加 OPEN "FAQ008_標準偏差結合" DEFINE FIELD [偏差値] F DEC 1 PIC "True" POSITION 5 COMPUTED ([販売単価] - [平均_販売単価]) / [標準偏差_販売単価] * 10 + 50

【偏差値を利用するメリット】

・偏差値は、データが平均からどれだけ離れているかを示す指標です。

・偏差値を用いることで、異なる商品の販売単価が商品毎の平均からどれだけ離れているかを、同じ尺度で比較 することができます。

7.51	1
141	
1/1	

79)							
	伝票番号	商品名	販売単価	平均_販売単価	平均販売単価との差額	偏差値	
1	100001	AAA	900	1,000	-100	47.2	
2	100002	AAA	1,600	1,000	600	67.0	
3	100003	AAA	800	1,000	-200	44.3	
4	100004	AAA	700	1,000	-300	41.5	
5	100005	BBB	9,600	9,000	600	54.3	
6	100006	BBB	11,000	9,000	2,000	64.2	
7	100007	BBB	8,000	9,000	-1,000	42.9	
8	100008	BBB	7,400	9,000	-1,600	38.6	

平均販売単価との差額は同じだが、 偏差値を利用することにより、伝票 番号100002が伝票番号100005 よりも平均から離れていることが分析 できます。

金額の上位**件を抽出したい

◇質問

金額の上位**件のデータを抽出するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

《並べ替え》コマンドと〈ROW関数〉を利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

金額の上位3件のデータを抽出

・加工対象テーブルのイメージ

	社員名	適用	金額
1	AAA	慶弔	10,000
2	BBB	贈答品	2,000
3	CCC	贈答品	3,000
4	DDD	手土産	5,000
5	EEE	手土産	7,000
6	FFF	会食	30,000
7	GGG	会食	15,000
8	ннн	手土産	8,000

・加工後テーブルのイメージ

		金額	社員名	適用
А	1	30,000	FFF	会食
L)	2	15,000	GGG	会食
Y	3	10,000	AAA	慶弔

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
2	メニューの《加工》-《並べ替え》を選択します。	対象テーブル	—
3	「並べ替え対象フィールド」に並べ替えの基準となるフィールドを 選択して、「降順」をクリックします。	並べ替えコマンド	操作画面1
4	「その他出力フィールド」は出力したいフィールドを選択し「実行」 をクリックします。	並べ替えコマンド	操作画面1
5	メニューの《加工》-《抽出》を選択します。	ナビゲーター画面	—
7	抽出したいフィールドを選択し、条件式(IF 条件)の =+ をクリッ クし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	_
8	〈ROW関数〉をクリックし、抽出したいデータの条件を入力します。	式ビルダー	操作画面2
9	保存先を指定し、「実行」のボタンをクリックします。	抽出コマンド	_

 \times

//[金額]の上位3件を抽出 OPEN "FAQ009_並べ替え" EXTRACT ALLFIELDS IF ROW() <= 3 TO "FAQ009_抽出" OPEN

SORT ON [金額] D FIELDS ALLFIELDS TO "FAQ009_並べ替え" OPEN

【スクリプト構文】

//[金額]を降順で並べ替え

OPEN "FAQ0009"

<om() <="3</th"><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>関数の指定</th><th></th></om()>						関数の指定	
						絞り込み	
						関数名	関数の説明
					-	MOD	指定した分子を分母で割り算して、余り(剰余)を返し
田可能なフィールド		使用可能な遠	管之			MONTH	指定された日付または日付時刻から月を抽出し、それを数
		使用可能な演	L -H			NOW	現在のオペレーティングシステム時刻を日付時刻データ型
イールド名	テータ型	=	<>	AND		OCCURS	部分文字列が指定された文字値内に現れる回数を数え
額	N					OFFSET	指定したフィールドの各レコードを基準にして、指定した行
	C	<	>	OR		OMIT	指定した1つ以上の部分文字列が削除された文字列を
i用	C					REPLACE	指定された文字列を新しい文字列で置き換えます。
		<=	>=	NOT			文字列(または指定したフィールド)の末尾から指定され
						8 ^{1D}	小数点以下を四捨五入して整数にします。
		+	_			ROW	行番号を数値型で返します。
						SECOND	北京された味力せたはロクリーを知知を抽出し、それ

■操作画面2

[∅] → ^{ダ−}

🛷 並べ替え							-		Х
テーブル名	FAQ0009								
並べ替え対象	象フィールド		フィールド選択	4) 出力フィールド		71-	・ルド選択	
降順 💆	フィールド名	データ型			フィールド名	データ型			
	社員名	С		1	社員名	С			
9	適用	С		2	適用	С			
2 1	金額	Ν		3	金額	Ν			
				_					
IF条件 三+							(4)		
							\succeq		
保存先	FAQ009_並べ替え					キャンセル		実行	

■操作画面1

FAQ009

従業員毎の残業時間の合計を計算したい

◇質問

従業員毎の残業時間の合計を計算するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

《要約》コマンドとを利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ

	社員名	月	残業時間
1	AAA	2024/01	30
2	AAA	2024/02	20
3	AAA	2024/03	25
4	BBB	2024/01	10
5	BBB	2024/02	15
6	BBB	2024/03	20
7	CCC	2024/01	10
8	CCC	2024/02	20
9	CCC	2024/03	5

・加工後テーブルのイメージ

	社員名	合計_残業時間	カウント件数
1	AAA	75	3
2	BBB	45	3
3	CCC	35	3

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
2	メニューの《分析》-《要約》を選択します。	対象テーブル	—
3	「要約キーフィールド」で合計を計算する基準となるフィールドを選択し、「小計フィールド」で計算対象のフィールド(数値型)を選択 します。	要約コマンド	操作画面1
4	「出力先」はテーブルを選択し、保存先にテーブル名を入力して 「実行」をクリックします。	要約コマンド	操作画面1

■操作画面1

7

(例では、[社員名]ごとに[残業時間]の「合計」を要約したテーブルを出力している。)

🛷 要約												_		×
: 3 ²	: FAQ010			3										
要約キーフ	フィールド		フィールド選択	小計フィ	ィールド		フィールド選択	その他	出力フィールド			フィーノ	レド選択	
💌 71	ィールド名	データ型			フィールド名	データ型			フィールド名		データ型			
1 社	員名	С		1 死	浅業時間	N		:	社員名		С			
月		D							月		D			
残	業時間	N							残業時間		N			
オプション														
	平均值·最大值·最小	値	標	準偏差・合	合計割合(%)		🦳 件数割合(%)							
0 + 4	15条4	. =.												
	lf余)	+ -+												
	ī													
• テーフ	ブル													
	保	存先FAQ	010_要約								(4 –		
										キャン	セル	ş	≷行	

【スクリプト構文】

//[社員名]ごとに[残業時間]の「合計」を要約 OPEN "FAQ010" SUMMARIZE ON [社員名] SUBTOTAL ALLFIELDS OTHER TO "FAQ010_要約" OPEN

重複しているレコードを抽出したい

◇質問

重複しているレコードを抽出するにはどうすればよいですか?

◇回答

《要約》コマンドと《結合》コマンドを利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ

・加	工対象テ・	ーブルのイ	メージ				加	Τ	後テーブ	V	のイメージ				
	売上番号	計上日	商品No	数量	販売単価	$ \lambda $			カウント件数		売上番号	計上日	商品No	数量	販売単価
1	11671	2017/07/05	30201001	3	99		1			2	11674	2017/07/09	30601002	977	565
2	11672	2017/07/06	30301012	1	1.628	14/	2			2	11674	2017/07/09	30601002	977	565
3	11673	2017/07/08	30103003	32	177	· /									
4	11674	2017/07/09	30601002	977	565										
5	11674	2017/07/09	30601002	977	565										
6	11675	2017/07/09	30602001	589	363										
7	11676	2017/07/10	30602003	10	222										
8	11677	2017/07/10	30402001	12	384										

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
2	メニューの《分析》-《要約》を選択します。	対象テーブル	
3	「要約キーフィールド」ですべてのフィールドを選択します。 ※「小計フィールド」、「その他出力フィールド」、「オプション」は何 も選択しないでください。	要約コマンド	操作画面1
4	「出力先」で「テーブル」を選択、保存先を指定し《実行》ボタン をクリックし、[カウント件数]フィールドを含む、要約されたテーブ ルを作成します。	要約コマンド	操作画面1
5	④で作成したテーブルを開き、メニューの《加工》-《結合》を選 択します。	要約テーブル	—
6	「副テーブル」に加工対象のテーブルを選択します。	結合コマンド	操作画面2
7	結合パターンを「(3) キーが一致した主レコードと副レコード(一 致するものすべて)」に設定し、[カウント件数]以外のフィールド すべてを主キーフィールドおよび副キーフィールドに設定します。	結合コマンド	操作画面2
8	主テーブルは[カウント件数]フィールドを出力フィールドに選択し、 副テーブルはすべてのフィールドを出力フィールドに選択します。	結合コマンド	操作画面2

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
9	条件式(IF 条件)の =+ をクリックし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	
10	[カウント件数] <> 1(カウント件数が1以外)の条件式を 入力します。	式ビルダー	操作画面2
(1)	保存先を指定し、「実行」のボタンをクリックします。	抽出コマンド	_

💉 要約	5								– 🗆 X
6	经: EAO011								
3	AUT								
要約	ウキーフィールド		フィールド選択	小計フィールド		フィールド選択	その他出力フィールド		フィールド選択
	フィールド名	データ型		📃 フィールド名	データ型		📃 フィールド名	データ型	
1	売上番号	С		数量	Ν		売上番号	С	
2	計上日	D		販売単価	Ν		計上日	D	
3	商品No	С					商品No	С	
4	数量	N					数量	N	
5	販売単価	Ν		J			販売単価	Ν	
オプ	ション								
	平均值·最大化	値·最小値	□標	準偏差・合計割合(%)		🦳 件数割合(%)			
出ナ	〕先	IF条件 🗕							
	画面								
(
0	テーブル								
L		保存先 FAC	2011_要約						(4)
								キャンセル	実行

■操作画面2

	副レコート(̄致するものすべて)		6 副テーブル名: FAQ011		
- フルールド		フィールド選択	7)7-JUF		フィールド選打
. フィールド名	データ型		🛃 フィールド名	データ型	
売上番号	С		1 売上番号	С	
計上日	D		2 計上日	D	
商品No	C		3 商品No	С	
数量	N)	4 数量	Ν	
テーブルの出力フィールド		フィールド選択	8 加の出力フィールド		フィールド選
1. フィールド名	データ型		🔀 フィールド名	データ型	
商品No	С		1 売上番号	C	
数量	Ν		2 計上日	D	
販売単価	N		3 商品No	C	
カウント件数	Ν		4 数量	N	
加を対象とした絞り込み条件	≡+				

【スクリプト構文】

//要約して重複を確認 OPEN "FAQ011" SUMMARIZE ON ALLFIELDS SUBTOTAL OTHER TO "FAQ011_要約" OPEN
//要約したデータを結合してカウント件数2件以上のデータを抽出 OPEN "FAQ011_要約" OPEN "FAQ011" SECONDARY JOIN PKEY [売上番号] [計上日] [商品No] [数量] [販売単価] FIELDS [カウント件数] SKEY ALLFIELDS WITH ALLFIELDS MANY IF [カウント件数] <> 1 T0 "FAQ011_結合" OPEN

テーブルの中に特定の文字が含まれるレコードを一括で削除したい

◇質問

テーブルの中に特定の文字が含まれる行を一括で削除するにはどうすればよいですか?

◇回答

《抽出》コマンドと〈FIND関数〉を利用することにより特定の文字が含まれるレコードを削除したデータを抽出できます。

【データ加工処理イメージ】

レコードの一部または全てがエラーのデータを削除したデータを抽出する。

・加工対象テーブルのイメージ

	社員名	適用	金額
1	AAA	エラー	10000
2	BBB	贈答品	2000
3	ССС	贈答品	3000
4	エラー	エラー	17-
5	EEE	手土産	7000
6	FFF	会食	30000
7	エラー	会食	15000
8	ннн	手土産	エラー

・加工後テー	-ブルのイメー	ジ
--------	---------	---

	社員名	適用	金額
1	BBB	贈答品	2000
2	CCC	贈答品	3000
3	EEE	手土産	7000
4	FFF	会食	30000

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《加工》-《抽出》を選択します。	対象テーブル	_
3	抽出したいフィールドを選択し、条件式(IF 条件)の =+ をクリッ クし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	_
4	〈FIND関数〉をクリックし、以下の条件を入力します。 ・検索する文字列:削除対象の文字列を入力します。 ・検索方法:任意の値を選択します。 ・大小区別:任意の値を選択します。 ・検索対象フィールド:選択しません。(全フィールドを対象)	式ビルダー	操作画面1
5	④の演算式の後に=F または = False と入力します。 =F または =False と入力することにより、演算式の条件に合 致しないデータを抽出できます。	式ビルダ—	操作画面2
6	保存先を指定し、《実行》のボタンをクリックします。	抽出コマンド	

■操作画面1

(例では、全てのフィールドを対象に"エラー"の文字が含まれているデータを検索)

W FIND	—		×
4 (検索する文字列, 検索方法, 大小区別, 検索対象フィールド)			
検索する文字列 (エラー) 検索する文字列を指定します。			
検索方法 0 0:部分一致 1:完全一致			
④ IC別 0:区別しない 1:区別する			
検索対象フィールド くうしゃ しんちょう くうしん しんしょう しんしょ しんしょ	略可能)		
指定された文字列が、特定のフィールド中またはレコード全体のどこかに存在するかどうかを示す論理値を返します。			
 ●検索方法 :検索する際に、部分一致か完全一致かを選択します。 ●大小文字区別 :アルファベットの大文字とレスシャ文字を区別するか同じ文字として扱うかを選択します。 ●検索対象フィールド :「検索する文字列」をどのフィールドで検索するか指定します。 省略(空欄に)した場合は、すべてのフィールドから検索します。 複数フィールドから検索する場合は、フィールド名を足し算することで検索できます。 例)[フィールド名1] + [フィールド名2] ⇒ 「フィールド名1]または「フィールド名2」から検索 			
ок	:	キャンセ	μ

■操作画面2

4 5 11/9-						
式の設定						関数の指定
FIND("Iラ-",0,0) = F					•	絞り込み
						関数名
					•	AGE
使用可能なフィールド		使用可能な濁	寅算子			AT
フィールド名	データ型					BETWEEN
社員名	С	=	<>	AND		DAY

【スクリプト構文】

//ファイルのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ012" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ012" STARTLINE 1 FIELD [社員名] C FIELD [適用] C FIELD [金額] C //データの抽出 OPEN "FAQ012" EXTRACT ALLFIELDS IF FIND("エラー",0,0)=F TO "FAQ012_抽出" OPEN

新規テーブルを作成するときにサブフォルダを作成したい

◇質問

新規テーブルを作成するときにサブフォルダ作成するにはどうすればよいですか?

◇回答

テーブルの保存先に「サブフォルダ名/テーブル名」を指定することでサブフォルダを作成することができます。

【サブフォルダの作成イメージ】

「FAQ013_サブフォルダ」を作成し、「FAQ013_経費」テーブルをサブフォルダへ保存する。

FAQ	С
▶ 🗖 スクリプト	
4 🛅 ログ	
FAQ.	
◊ 🗖 ソースファイル	
🔺 🖻 テーブル	
▲ 🛅 FAQ013_サブフォルダ	
■ FAQ013_経費	
エクスポート	

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	テーブルの保存先を指定する際に、「サブフォルダ名/テーブル 名」を入力し、《実行》のボタンをクリックします。 (「/」は、半角のバックスラッシュです。) すでにサブフォルダが作成されている場合は、そのフォルダの下に テーブルが表示されます。 サブフォルダがない場合は、新規に作成されます。	ド	操作画面1

■操作画面1

(例では抽出コマンドで、サブフォルダ名を"FAQ013_サブフォルダ"、テーブル名を"FAQ013_経費"と指定)

参 抽出 テーブル名 FAQ013_経費		– – ×
抽出フィールド		
フィールド名 1 社員番号 2 金額 3 適用	^{〒-9型} c N c	FAQ013_サブフォルダ/FAQ013_経費
① ■↓ 保存先 FAQ013_サブフォルダ/FAQ013_経費	+tv1	セル 実行

フィールドの先頭文字が数字の場合、先頭の●文字を取得したい

◇質問

フィールドの先頭文字が数字の場合、先頭の●文字を取得するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

〈MATCH関数〉と〈SUBSTR関数〉を利用することにより取得することができます。
※〈MATCH関数〉と〈SUBSTR関数〉の詳細は、機能説明書の「関数」をご参照ください。

【データ加工処理イメージ】

フィールドの先頭文字が数字の場合、先頭の6文字を取得する。



・加工後テーブルのイメージ

	入力月	FAQ014_文字の取得
1	202405入力	202405
2	入力取消	入力取消
3	エラー	エラー
4	202406入力	202406
5	202406入力	202406
6	入力日6月1日	入力日6月1日
7	202406入力	202406

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	_
3	「データ型」は文字型を選択し、「初期値」の <i>〓</i> +をクリックし式ビ ルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	
4	[加工対象フィールド]をダブルクリックし「初期値」へ設定します。	式ビルダー	操作画面1
(5)	条件式の「条件」の =+をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
6	〈MATCH関数〉を下記の通り作成します。 MATCH(①検索対象フィールド,②検索する文字列,③大小文 字区別) ①検索対象フィールド:SUBSTR([加工対象フィールド],1,1) ②検索する文字列:"1,2,3,4,5,6,7,8,9,0" ③大小文字区別:0 [加工対象フィールド]の1文字目が検索する文字列(0~9)とマッ チするかどうかを検証します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
7	条件式の「式または値」の = +をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
8	〈SUBSTR関数〉をクリックして、以下の条件を入力します。 取得対象フィールド:[加工対象フィールド] 開始位置:1 取得文字数:6	式ビルダー	操作画面3
9	《実行》のボタンをクリックして新規フィールドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1

■操作画面1

🛷 追加フィールド編集				– 🗆 X
テーブル名 <u>FAQ014</u> フィールド名 FAQ014_文字の取得				
デー9型 文字型				
	*			
初期値 [入力月]				=+
条件式		5		
適用順	条件		式または値	
1 MATCH(SUBSTR([入力	月],1,1),"0,1,2,3,4,5,6,7,8,9",0)	三+ 5UBSTR([入力月],1,6)		=+ 🖺 🗇
追加		≂+		≡+
				9
			キャンセル	削除 実行



■操作画面3

7

🛷 SUBSTR			—		×
8 STR(取得対象値,開始位置	,取得文字数)				
取得対象値	[[入力月] ~]	取得対象となる値を指定します。			
開始位置	1	何文字目から取得するか、開始位置を指定します。			
取得文字数	6	開始位置から取り出したい文字数を指定します。			
指定した値またはフィールドの値 半角も全角も1文字として数えま 取得した文字のデータ型は、文号	に対して、開始位置から指定した文字数分の値を取 ます。 字型となります。	(得します。	ж	++7/1	z J ,

【スクリプト構文】

//ファイルのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ014" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ014" STARTLINE 1 FIELD [入力月] C OPEN "FAQ014"
//文字の取得 DEFINE FIELD [FAQ014_文字の取得] C POSITION 1 COMPUTED [入力月] SUBSTR([入力月],1,6) IF MATCH(SUBSTR([入力月],1,1),"0,1,2,3,4,5,6,7,8,9",0)

日付から四半期区分を作成したい

◇質問

日付から四半期区分を作成するにはどうすればよいですか?

◇回答

〈BETWEEN関数〉を利用することにより作成することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ





・加工後テーブルのイメージ(3月決算の場合)

	計上日	計上月	四半期区分
1	2023/04/03	4	第1四半期
2	2023/05/22	5	第1四半期
3	2023/07/03	7	第2四半期
4	2023/07/30	7	第2四半期
5	2023/09/04	9	第2四半期
6	2023/11/11	11	第3四半期
7	2023/12/20	12	第3四半期
8	2024/03/04	3	第4四半期

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	_
3	「フィールド名」を"計上月"と入力、「データ型」は数値型(整 数)を選択し、「初期値」の ニ +をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
4	「関数の指定」画面で〈MONTH関数〉をクリックし、下記の条 件を入力します。 ・日付/日付時刻:[計上日](日付時刻型)	式ビルダ—	_
(5)	《実行》のボタンをクリックして新規フィールドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	_
6	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
7	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	
8	「データ型」は文字型を選択し、「初期値」は"?"(エラーの値) を入力します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2

番号	操作手順	操作対象画面	参照	
9	条件式の「条件」の ☴ ӊをクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
10	「関数の指定」画面で〈BETWEEN関数〉をクリックし下記の条件を入力します。 ・検索対象値 : [計上月] (⑤で作成したフィールド) ・範囲の最小値 : 4 ・範囲の最大値 : 6	式ビルダ—	操作画面3	
11)	「完了」をクリックし、新規フィールド追加画面へ⑤で入力した条件 を反映させます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
12	条件式の「式または値」に"第1四半期"と入力します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
13	条件式の「追加」ボタンをクリックし、条件式を追加します。	新規フィールド追加コマンド	—	
14)	⑧で追加した条件式の「条件」の =+ をクリックし式ビルダーを開 きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
15	「関数の指定」画面で〈BETWEEN関数〉をクリックし下記の 条件を入力します。 ・検索対象値:[計上月] (⑤で作成したフィールド) ・範囲の最小値:7 ・範囲の最大値:9	式ビルダー		
16	「完了」をクリックし、新規フィールド追加画面へ⑩で入力した条件 を反映させます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
17	⑧で追加した条件式の「式または値」に"第2四半期"と入力しま す。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
18	⑦で追加した条件式の「追加」ボタンをクリックし、条件式を追加し ます。	新規フィールド追加コマンド	_	
19	⑬で追加した条件式の「条件」の =+ をクリックし式ビルダーを開 きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
20	「関数の指定」画面で〈BETWEEN関数〉をクリックし下記の 条件を入力します。 ・検索対象値 : [計上月] (⑤で作成したフィールド) ・範囲の最小値 : 10 ・範囲の最大値 : 12	式ビルダー		
21	「完了」をクリックし、新規フィールド追加画面へ⑮で入力した条件 を反映させます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
22	⑬で追加した条件式の「式または値」に"第3四半期"と入力しま す。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2	
23	⑬で追加した条件式の「追加」ボタンをクリックし、条件式を追加し ます。	新規フィールド追加コマンド	—	

_ 7

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
24)	1週で追加した条件式の「条件」の =+ をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2
25	「関数の指定」画面で〈BETWEEN関数〉をクリックし下記の 条件を入力します。 ・検索対象値:[計上月](⑤で作成したフィールド) ・範囲の最小値:1 ・範囲の最大値:3	式ビルダー	
26	「完了」をクリックし、新規フィールド追加画面へ⑳で入力した条件 を反映させます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2
27	1週で追加した条件式の「式または値」に"第4四半期"と入力しま す。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2
28	《実行》のボタンをクリックして新規フィールドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2

■操作画面1

# Month		\times
(4)//Ⅰ(日付/日付時刻)		
日付/日付時刻 [日付] ●	値を指定します。	

1111									
🥢 追加フィー	ルド編集						-		×
テーブル名	FAQ015								
- · · · · ·	陷								
	区分								
データ型	<u>1</u>								
文字型	•								
8 證	定								
初期値									
"?"							=+		
条件式									
適用川	ŧ.	条件				式または値			
1	BETWEEN([計上月],4,6)	9	=+	"第1四半期"	12		=+	Bi	J
16	BETWEEN([計上月],7,9)		=+	"第2四半期"			=+	Bi	J
21	BETWEEN([計上月],10,12)] (19)	=+	"第3四半期"	22		=+	Bi	J
26	BETWEEN([計上月],1,3)	24	=+	"第4四半期"	27		=+	Bi	J
追加		-						≡+	
								_	
•							-2	.8)	•
						キャンセル 削除		実行	
■操作画面3

_ 7

4	BETWEEN			—	×
	10 EEN (検査対象値, 範囲の:	最小値, 範囲の最大値)			
	検査対象値	[計上月] ~	範囲検査の対象とする値またはフィールドを指定します。		
	範囲の最小値	4 ~	範囲の最小値を指定します。		
	範囲の最大値	6 ~	範囲の最大値を指定します。	J	

//ファイルインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ015" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ015" STARTLINE 1 FIELD [計上日] D PIC "yyyy/mm/dd"
//月フィールドの作成 OPEN "FAQ015" DEFINE FIELD [計上月] N PIC "True" POSITION 1 COMPUTED MONTH([計上日])
//四半期区分フィールドの追加 OPEN "FAQ015" DEFINE FIELD [四半期区分] C POSITION 2 COMPUTED "?"
"第1四半期" IF BETWEEN([計上月],4,6) "第2四半期" IF BETWEEN([計上月],7,9) "第3四半期" IF BETWEEN([計上月],10,12) "第4四半期" IF BETWEEN([計上月],1,3)

商品別に月ごとの販売実績の月次推移を作成したい

◇質問

商品別に月ごとの販売実績の月次推移を作成するにはどうすればよいですか?

◇回答

《クロス集計》を利用することにより集計することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ

・加工後テーブルのイメージ	,
---------------	---

	商品名	売上日	販売金額	
1	AAA	2024/04/05	1,000	Г
2	BBB	2024/04/11	2,000	L
3	AAA	2024/04/11	3,000	
4	AAA	2024/04/22	2,000	
5	AAA	2024/05/10	1,500	
6	BBB	2024/05/18	1,000	
7	BBB	2024/05/19	800	
8	AAA	2024/06/01	4,000	

	商品名	販売金額_2024_04	販売金額_2024_05	販売金額_2024_06
1	AAA	6,000	1,500	4,000
2	BBB	2,000	1,800	0

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
2	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	_
3	「データ型」は日付時刻型(yyyy/mm)を選択し、「初期値」 の =+ をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	—
4	「使用可能なフィールド」の[売上日]フィールドを選択、ダブルク リックし、《完了》のボタンをクリックします。	式ビルダ—	操作画面1
5	《実行》のボタンをクリックして[売上年月]フィールドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	—
6	メニューの《分析》-《クロス集計》を選択します。	対象テーブル	—
7	《クロス集計》画面で下記の条件を入力します。 「縦軸フィールド」:[商品名] 「横軸フィールド」:[売上月] 「小計フィールド」:[販売金額](数値型) 「出力先」:テーブル	クロス集計コマンド	操作画面2
8	保存先を指定し、「実行」をクリックします。	クロス集計コマンド	操作画面2

■操作画面1

7

(A) ^r -						- 🗆 X
					関数の指定	
[売上日]				^	絞り込み	
					関数名	関数の説明
				-	AGE	指定された日付を指定された基準日または現在のオペレー
形かつノールド	体用可能补注	第二			AT	文字値における部分文字列の特定の出現の開始位置をえ
	13C/H3 H3 H6 /4 /8L	W.T			BETWEEN	指定された値が範囲内にあるかどうかを示す論理値を返しま
4 1名 テーク型	=	\sim	AND		DAY	指定された日付または日付時刻から日付を抽出し、それを!
C C					FIND	指定された文字列が、特定のフィールド中またはレコード全1
	<	>	OR		HOUR	指定された時刻または日付時刻から時間を抽出し、それを
販売金額 N					INT	小数点以下を切り捨てて整数にします。
	<=	> =	NOT		JIS	指定した文字列やフィールドを全角文字または半角文字に
					LENGTH	文字列に含まれている文字数を返します。
	+	-			MATCH	指定した文字列(複数可)が検索対象フィールドまたは全
					MINUTE	指定された時刻または日付時刻から分数を抽出し、それを
	*	/			MOD	指定した分子を分母で割り算して、余り(剰余)を返しま
					MONTH	指定された日付または日付時刻から月を抽出し、それを数
	~	0			NOW	現在のオペレーティングシステム時刻を日付時刻データ型で
			(4)		OCCURS	部分文字列が指定された文字値内に現れる回数を数えて
			<u> </u>	_	OFFSET	指定したフィールドの各レコードを基準にして、指定した行数
式の検証		キャンセル	# 7		OMIT	指定した 1 つ以上の部分文字列が削除された文字列を返
			,		_	

■操作画面2

🥠 クロス集計					– 🗆 X
7 レ名: FAQ016			7		
縦軸フィールド		フィールド選択	横軸フィールド		
 ✓ フィールド名 1 商品名 	データ型 C		売上月 : D		٠
売上月	D		小計フィールド		フィールド選択
販売金額	Ν		💌 フィールド名	デー9型	
7			1 販売金額	N	
出力先 〇 画面	IF条件 三十				
 □ カウントを含める ● テーブル 	保存先 FAQ016_7[口ス集計		キャンセル	8 実行

//インポート IMPORT EXCEL TO "FAQ016" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ016" STARTLINE 1 FIELD [商品名] C FIELD [売上日] D PIC "yyyy/mm/dd" FIELD [販売金額] N PIC "True"
//売上年月フィールドの追加 OPEN "FAQ016" DEFINE FIELD [売上年月] D PIC "yyyy/mm" POSITION 2 COMPUTED [売上日]
//クロス集計 OPEN "FAQ016" CROSSTAB ON [商品名] COLUMNS [売上年月] SUBTOTAL ALLFIELDS TO "FAQ016_クロス集計" OPEN

前日との在庫残高の差を計算したい

◇質問

前日との在庫残高の差を計算するにはどうすればよいですか?

◇回答

〈OFFSET関数〉を利用することにより計算することができます。

【データ加工処理イメージ】

	日付	残高
1	2024/04/01	3,000
2	2024/04/02	2,200
3	2024/04/03	2,300
4	2024/04/04	2,000
5	2024/04/05	1,900
6	2024/04/06	2,500
7	2024/04/07	3,500
8	2024/04/08	2,000

・加工対象テーブルのイメージ ・加工後テーブルのイメージ

	日付	残高	前日差
1	2024/04/01	3,000	0
2	2024/04/02	2,200	-800
3	2024/04/03	2,300	100
4	2024/04/04	2,000	-300
5	2024/04/05	1,900	-100
6	2024/04/06	2,500	600
7	2024/04/07	3,500	1,000
8	2024/04/08	2,000	-1,500

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
2	メニューの《加工》-《並べ替え》を選択します。	対象テーブル	_
3	「並べ替え対象フィールド」に[日付]フィールドを選択します。	並べ替えコマンド	操作画面1
4	「その他出力フィールド」はすべてのフィールドを選択し「実行」を クリックします。	並べ替えコマンド	操作画面1
5	④で作成したテーブルをダブルクリックして、テーブル画面を開き ます。	ナビゲーター画面	—
6	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	
7	「データ型」は数値型(整数)を選択し、「初期値」の =+ をク リックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
8	「使用可能なフィールド」から[日付]を選択、ダブルクリックし「使 用可能な演算子」から "-" を選択します。	式ビルダ—	—
9	「関数の指定」画面で〈OFFSET関数〉をクリックし下記の条件 を入力し、『OK』ボタンをクリックします。 ・取得対象フィールド : [残高] ・行数 : -1	式ビルダ—	操作画面3
10	式の設定画面に、前日の残高との差を計算する演算式が、下記のとおり入力されていることを確認します。 演算式: [残高] - OFFSET([残高],-1)	式ビルダ—	操作画面4
11	『式の検証』をクリックし、正しい構文であることを確認し『完了』ボタ ンをクリックします。	式ビルダ—	
13	条件式の「条件」の =+をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2
14	「関数の指定」画面で〈OFFSET関数〉をクリックし下記の条件を入 カし、『OK』ボタンをクリックします。 ・取得対象フィールド:[日付] ・行数:-1	式ビルダ—	
15	式の設定画面で前日のデータがない場合の演算式が下記のとおり入力されていることを確認します。 演算式:OFFSET([日付],-1) = `19000101`※ ※日付時刻型でエラー(データがない)の場合、`190000101`と なります。	式ビルダ—	
16	『式の検証』をクリックし、正しい構文であることを確認して『完了』 ボタンをクリックし、条件式に反映していることを確認します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2
17	条件式の「式または値」に 0 ※と入力します。 ※前日のデータがない場合、差が計算できないため 0 を入力。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2
18	《実行》のボタンをクリックして新規フィールドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2

■操作画面1

🛷 並べ替え							—		×
3 比名	FAQ017			3)				
並べ替え対象	マイールド		フィールド選択	その代	き出力フィールド		フィー	ルド選択	
降順 🔽	フィールド名	データ型			フィールド名	データ型			
1	日付	D		1	日付	D			
	残高	N		2	残高	N			
									J
IF条件 三十							4		
保存先	FAQ017_並べ替え					キャンセル		実行	

×

SORT ON [日付] FIELDS [日付] [残高] TO "FAQ017_並べ替え" OPEN //前日差フィールドの追加 OPEN "FAQ017_並べ替え" DEFINE FIELD [前日差] N PIC "True" POSITION 2 COMPUTED [残高] - OFFSET([残高],-1) 0 IF OFFSET([日付],-1) = `19000101`

//インポート IMPORT EXCEL TO "FAQ017" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ017" STARTLINE 1 FIELD [日付] D PIC "yyyy/mm/dd" FIELD [残高] N PIC "True" //並べ替え OPEN "FAQ017" SORT ON [日付] FIELDS [日付] [残高] TO "FAQ017_並べ替え" OPEN

【スクリプト構文】

■操	作画面4
<i>W</i> =	モビルダー
(10	
式	の設定
[3	线高] - OFFSET([残高],-1)

OFFSET				—	
9 T(取得対象フィールド,行	数)				
	~				
取得対象フィールド	[残高]	~	取得対象となるフィールド名を指定します。		
行数	-1		現在のレコードを基準にn番目にあるレコードを指定します。		

■操作画面3

■操作画面2	
〃 追加フィールド編集	– 🗆 X
テーブル名 <u>FAQ017 並べ替え</u>	
デー9型 数値型(整数) -	
書式設定 桁区切り有り ・	
初期值 [残高] - OFSET[[残高],-1)	=+
жнях 16	
週用順 元末たは値 第加 OFFSET((日付].1) = '19000101' 写 口	=+
	18
キャンセル	削除 実行

FAQ017

マスターファイルに登録されているコードのデータを抽出したい

◇質問

マスターファイルに登録されている科目コードのデータを抽出するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

《集約》と〈MATCH関数〉を利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

マスターファイルに登録されている科目コードのデータを抽出

・加工対象テーブルのイメージ

・加工後テーブルのイメージ

	科目コード	科目名	金額
1	AAA	科目A	1,000
2	BBB	科目B	2,000
3	CCC	科目C	10,000
4	999	科目9	999
5	DDD	科目D	7,000
6	EEE	科目E	800

	科目コード	科目名	金額	集約_科目コード	
1	AAA	科目A	1,000	AAA,BBB,CCC,DDD,EEE,FFF,GGG	
2	BBB	科目B	2,000	AAA,BBB,CCC,DDD,EEE,FFF,GGG	
3	ссс	科目C	10,000	AAA,BBB,CCC,DDD,EEE,FFF,GGG	
4	DDD	科目D	7,000	AAA,BBB,CCC,DDD,EEE,FFF,GGG	
5	EEE	科目E	800	AAA,BBB,CCC,DDD,EEE,FFF,GGØ	

・マスターファイルのイメージ

	科目コード	科目名	
1	AAA	科目A	
2	BBB	科目B	
3	ССС	科目C	
4	DDD	科目D	
5	EEE	科目E	
6	FFF	科目F	
7	GGG	科目G	

▶《集約》

・《集約》は、集約対象フィールドのレコードを"、"区切りで1つのレコードとして出力する機能です。

.....

・「連携テーブル」を指定することにより集約結果を連携テーブルに結合して出力することができます。

(※《集約》機能の詳細は機能説明書をご参照ください)

【操作手順】

FAQ018

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	マスターファイルをプロジェクトフォルダ内の「03_source」へ格納 します。	プロジェクトファイル	_
2	マスターファイルをインポートします。	インポート画面	_
3	②でインポートしたテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開 きます。	ナビゲーター画面	_
5	メニューの《加工》-《集約》を選択します。	対象テーブル	_
6	「連携テーブル」は加工対象テーブルを選択します。	集約コマンド	操作画面1
7	《集約》画面で下記の条件を入力し、保存先を指定し「実行」 ボタンをクリックします。 「集約フィールド」: [科目コード] 「連携フィールド」: [科目コード][科目名][金額]	集約コマンド	操作画面1
8	⑦で作成したテーブル画面を開き、メニューの《加工》-《抽出》 を選択します。	ナビゲーター画面	_
9	条件式(IF 条件)の ニ +をクリックし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	—
10	〈MATCH関数〉をクリックし、「検索する文字列」は集約結果 フィールドを選択し、「検索対象フィールド」は検索対象のフィー ルドを選択し「OK」をクリックします。	式ビルダー	操作画面2
(1)	式ビルダーに式が入力されていることを確認し、「完了」をクリック します。	式ビルダー	操作画面2
(11)	保存先を指定し、「実行」のボタンをクリックします。	抽出コマンド	

■操作画面1

🥠 集約]						-		×
(7	ブル FAQ018_マスターデータ		6	連携	テーブル名 FAQ018]
集編	約フィールド		フィールド選択	連携	ライールド		71	ールド選択	٤
	フィールド名	データ型			フィールド名	データ型			
1	科目コード	С		1	科目コード	С			
	科目名	С		2	科目名	С			
				3	金額	Ν			
連携	きテーブルを対象とした絞り込み条件	=+							J -
7)						7		
保	存先 FAQ018_集約]		キャンセル		実行	

■操作画面2

11	MATCH			-		×
N	(検索する文字列	, 大小文字区別 , 検索対象フィールド)				
	検索する文字列	[集約_科目コード]	→ 検索したい文字列を指定し	します。複数指定可能です。		
	10大字区别	0	✓ 0:区別しない 1:区別	する		
	検索対象フィールド	[科目コード]	── 検索対象とするフィールドを	指定します。省略可能		
	 ●検索する文字列 ●大小文字区別 ●検索対象フィールド 	: 検索したい文字列を指定します。複数打 : アルファベットの大文字とハ文字を区別 : 「検索する文字列」をどのフィールドで検究 省略した場合またはALLFIELDSを選択 複数フィールドから検索する場合は、フィ 例) [フィールド名1] + [フィールド名	指定する場合は半角カンマ()で区切ります。※部 するか同じ文字として扱うかを選択します。 案するか指定します。 した場合は、すべてのフィールドから検索します。 ールド名で足し算することで検索でさます。 名2]	分一致検索		
	【スクリプト例】 MATCH	4(17-11)*名],"訂正,修正,指示,不正,行	役員" , 0)	(10)	キャンセ	211
		🥢 式ビルダー				
		式の設定 MATCH([集約_科目コー	ド],[科目コード],0)			

//加工対象データのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ018" FROM "¥FAQ.xlsx" TABLE "FAQ018" STARTLINE 1 FIELD [科目コー ド] C FIELD [科目名] C FIELD [金額] N PIC "True"
//マスターファイルのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ018_マスターデータ" FROM "¥FAQ_マスターファイル.xlsx" TABLE "FAQ018" STARTLINE 1 FIELD [科目コード] C FIELD [科目名] C
//集約コマンドの実行 OPEN "FAQ018_マスターデータ" OPEN "FAQ018" SECONDARY COMPILE ON [科目コード] FIELDS ON ALLFIELDS TO "FAQ018_集約" OPEN
//抽出 OPEN "FAQ018_集約" EXTRACT ALLFIELDS IF MATCH([集約_科目コード],[科目コード],0) TO "FAQ018_抽出" OPEN

マスターファイルに登録されていない科目コードのデータを抽出したい

◇質問

マスターファイルに登録されていない科目コードのデータを抽出するにはどうすればよいですか?

◇回答

《集約》と〈MATCH関数〉を利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

マスターファイルに登録されていない科目コードのデータを抽出

・加工対象テーブルのイメージ

・加工後テーブルのイメージ

, ,									
	科目コード	科目名	金額			科目コード	科目名	金額	集約_科目コード
1	AAA	科目A	1,000		1	999	科目9	999	AAA,BBB,CCC,DDD,EEE,FFF,GGG
2	BBB	科目B	2,000	Д					and the second se
3	ССС	科目C	10,000	$\lfloor \rangle$					*********
4	999	科目9	999	Y				****	
5	DDD	科目D	7,000				********		
6	EEE	科目E	800				*****		

・マスターファイルのイメージ

	科目コード	科目名
1	AAA	科目A
2	BBB	科目B
3	ССС	科目C
4	DDD	科目D
5	EEE	科目E
6	FFF	科目F
7	GGG	科目G

≻《集約》

・《集約》は、集約対象フィールドのレコードを"、"区切りで1つのレコードとして出力する機能です。

・「連携テーブル」を指定することにより集約結果を連携テーブルに結合して出力することができます。

(※《集約》機能の詳細は機能説明書をご参照ください)

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	マスターファイルをプロジェクトフォルダ内の「03_source」へ格納 します。	プロジェクトファイル	_
2	マスターファイルをインポートします。	インポート画面	_
3	②でインポートしたテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開 きます。	ナビゲーター画面	
5	メニューの《加工》-《集約》を選択します。	対象テーブル	_
6	「連携テーブル」は加工対象テーブルを選択します。	集約コマンド	操作画面1
7	《集約》画面で下記の条件を入力し、保存先を指定し「実行」 ボタンをクリックします。 「集約フィールド」: [科目コード] 「連携フィールド」: [科目コード][科目名][金額]	集約コマンド	操作画面1
8	⑦で作成したテーブル画面を開き、メニューの《加工》-《抽出》を 選択します。	ナビゲーター画面	_
9	条件式(IF 条件)の 三 +をクリックし式ビルダーを開きます。	抽出コマンド	_
10	〈MATCH関数〉をクリックし、「検索する文字列」は集約結果 フィールドを選択し、「検索対象フィールド」は検索対象のフィー ルドを選択し「OK」をクリックします。	式ビルダー	操作画面2
(1)	⑩で入力した演算式の後に=Fまたは = False と入力し「完 了」をクリックします。 =Fまたは =False と入力することにより、演算式の条件に合 致しないデータを抽出できます。	式ビルダー	操作画面2
(11)	保存先を指定し、「実行」のボタンをクリックします。	抽出コマンド	

■操作画面1

🛷 集約							-		×
7)-ブル FAQ019_マスターデータ		6	連携	テーブル名 FAQ019				
集約	フィールド		フィールド選択	連携	フィールド		71-	ルド選択	
	フィールド名	データ型			フィールド名	データ型			
1	科目コード	С		1	科目コード	С			
	科目名	С		2	科目名	C			
				3	金額	N			
連携	テーブルを対象とした絞り込み条件 📕								
7)						7		
保存	序先 FAQ019_集約					キャンセル		実行	

■操作画面2

W MATCH					×
WAICH			_	U	
▶ 10 (検索する文字列,大小文	(字区別,検索対象フィールド)				
検索する文字列	[集約_科目コード]	検索したい文字列を指定します。複数指定で	可能です。		
10 2字区别	0	∨ 0:区別しない 1:区別する			
検索対象フィールド	[科目コード]	◇ 検索対象とするフィールドを指定します。省略	可能		
指定した文字列(複数可)が検	京索対象フィールドまたは全てのフィールドのどこか!	に存在するかを検索して、論理値を返します。			
 ●検索する文字列 :検索し ●大小文字区別 :アルファ 	たい文字列を指定します。複数指定する場合は ベットの大文字と小文字を区別するか同じ文字	は半角カンマ()で区切ります。※部分一致検索 客として扱うかを選択します。			
●検索対象フィールド :「検索? 省略し 複数フ	する文字列」をどのフィールドで検索するか指定し た場合またはALLFIELDSを選択した場合は、す ワィールドから検索する場合は、フィールド名で足し	」ます。 「べてのフィールドから検索します。 」算することで検索できます。			
	例)[フィールド名1] + [フィールド名2]	0			
【スクリプト例】 MATCH([フィー)	ルド名] , "訂正,修正,指示,不正,役員" , 0)	Ú)		
(11)		ОК	キャンセル	
	ン ビルダー				
式の	設定	A			
MA	ATCH([集約_科目コード],[科目コード	•],0) = F			A
1	MATCH([集約]_科目コード],[利	ション	ード]	,0)= F



スクリプトを変更せずに同じレイアウトのソースファイルをインポートしたい

◇質問

スクリプトを変更せずに同じレイアウトのソースファイルをインポートするにはどうすればよいですか?

◇回答

《フォルダインポート》を利用することによりインポートすることができます。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	プロジェクトフォルダ内の「03_source」へ対象となるソースファイ ルを格納するフォルダを作成します。	プロジェクトフォルダ	操作画面1
2	ソースファイルを①で作成したフォルダへ格納します。	プロジェクトフォルダ	操作画面1
3	THUMGY Dataを起動して、スクリプトファイルを作成します。	ナビゲーター画面	—
4	THUMGY Dataを起動して、メメニューの《インポート》-《フォル ダインポート》を選択し、②で格納したファイルをインポートします。	フォルダインポート画面	
5	④のlogをコピーして③で作成したスクリプトへ貼り付けます。	スクリプト画面	操作画面2
6	⑤で貼り付けたスクリプトの中にある、SUBFOLDER BASEのあ との""の中を削除します。(""は残します) この手順により、ベースとなるファイルを指定せずに、フォルダの1番 上にあるファイルをベースにフォルダの中にあるファイルをインポートす るというスクリプトになります。	スクリプト画面	操作画面2
7	<u>レイアウトが同じ※</u> ソースファイルを①で作成したフォルダへ格納 します。 ※Excel:フィールド名とSheet名が同じ テキストファイル:フィールド名が同じ	プロジェクトフォルダ	—
8	⑥で作成したスクリプトを選択しスクリプトを実行します。	スクリプト画面	操作画面3

■操作画面1

(例では「03_source」に「売上データ」フォルダを作成し「売上データ2017上期.csv」を格納)



■操作画面2



2 IMPORT FOLDER TYPE DELIMITED TO "FAQ020_売上データ" FROM "\売上データ" SUBFOLDER BASE "" "ansi" QUOTECHAR "" SEPARATOR "," STARTLINE 1 ALLCHAR FIELD [売上番号] N PIC "True" FIELD [計上日] D PIC "yyyy/mm/dd" FIELD [商品 No] N PIC "True" FIELD [数量] C FIELD [仕入単価] N PIC "True" FIELD [販売単価] N PIC "True" FIELD [金額] N PIC "True" FIELD [営業担当者] C FIELD [入力担当者] C FIELD [入力日時] C

■操作画面3

(例では「売上データ2017上期.csv」とレイアウトが同じ「売上データ2017下期.csv」をインポート)

1	
2	IMPORT FOLDER TYF 🕑 LIMITED TO "FAQ020_売上データ" FROM "\売上データ" SUBFOLDER BASE "" "ansi" QUOTECHAR ""
	SEPARATOR "," STARTLINE 1 ALLCHAR FIELD [売上番号] N PIC "True" FIELD [計上日] D PIC "yyyy/mm/dd" FIELD [商品
	No] N PIC "True" FIELD [数量] C FIELD [仕入単価] N PIC "True" FIELD [販売単価] N PIC "True" FIELD [金額] N PIC
	"True" FIELD [営業担当者] C FIELD [入力担当者] C FIELD [入力日時] C

FAC	囲 FAQ020_売上データ ×										
	8										
	ソースファイル名	売上番号	計上日	商品No	数量	仕入単価	販売単価	金額			
1	売上データ2017下期.csv	11669	2017/07/02	30602002	71	227	780	55380			
2	売上データ2017下期.csv	11670	2017/07/04	30604001	21	1563	5000	105000			
3	売上データ2017下期.csv	11671	2017/07/05	30201001	3	99	400	1200			
4	売上データ2017下期.csv	11672	2017/07/06	30301012	1	1628	6000	6000			
5	売上データ2017下期.csv	11673	2017/07/08	30103003	32	177	800	25600			
6	売上データ2017下期.csv	11674	2017/07/09	30601002	977	565	1850	1807450			

【スクリプト構文】

//フォルダインポート IMPORT FOLDER TYPE DELIMITED TO "FAQ020_売上データ" FROM "¥売上データ" SUBFOLDER BASE "" "ansi" QUOTECHAR "" SEPARATOR "," STARTLINE 1 ALLCHAR FIELD [売上番号] N PIC "True" FIELD [計上日] D PIC "yyyy/mm/dd" FIELD [商品No] N PIC "True" FIELD [数量] C FIELD [仕入単価] N PIC "True" FIELD [販売単価] N PIC "True" FIELD [金額] N PIC "True" FIELD [営業担当者] C FIELD [入力担当者] C FIELD [入力日時] C

すべてのレコードのカウント件数・平均・合計をテーブルとして出力したい

◇質問

すべてのレコードのカウント件数・平均値・合計値をテーブルとして出力するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

《要約》コマンドで出力することができます。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	
2	メニューの《分析》-《要約》を選択します。	対象テーブル	—
3	《要約》画面で下記の条件を入力して《実行》ボタンをクリックします。 要約キーフィールド:「レコード」 小計フィールド:平均値と合計値を確認したい数値フィールド その他出力フィールド:選択しない オプション:「平均値・最大値・最小値」を選択 出力先:「テーブル」	要約コマンド	操作画面1

■操作画面1

 更約							- 0	×	
3 : FAQ021		(3)			(3)				
約キーフィールド) フィールド O レコード		小計7	小計フィールド ○ 選択しない ● 選択する			カフィールド しない 〇 選択す	5		
					出力する ● 最初	レコード の1件目 〇 すべて(のレコード		
	フィール	ド選択		71	-ルド選択		フィールドジ	選択	
] フィールド名	データ型		フィールド名	データ型		ィールド名	データ型		
売上番号	C	1	数量	N	7	上番号	С		
計上日		2	仕入単価	N	Ē	上日			
商品No		3	販売単価	N	PER L	品No			
数量	N	4	金額	N	9.0 X	量	N		
仕入単価	N				ť	入単価	N		
販売単価	N				則	売単価	N		
金額	N					額	N		
営業担当者					20	業担当者			
しカ担当者					7	力担当者			
'ション 2 平均値・最大値・最 力先	_{最小値}	□ 標準偏差・	合計割合(%)	#	教割合(%)		中央値•最頻値•Q25•Q75		
) 画面	(3)								
↓ テーブル	保存先 FAQ021						3		
							キャンセル 実行		
		実行結	課イメー	ジ			×		

32,010,210

1

182,915.49

-63,240

© 2025 SanKei Biz Consulting, Corp.

175

3,702,000

空白のレコードに直前の空白ではないレコードの値を入力したい

◇質問

空白のレコードに直前の空白ではないレコードの値を入力するにはどうすればよいですか?

◇回答

《補完》コマンドを利用することにより入力することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ

・加工後テーブルのイメージ

	商品番号	日付	金額
1	A00001	2024/10/01	100
2			200
3		2024/10/02	300
4	A00002	2024/10/01	300
5			400
6			500

	商品番号	日付	金額
1	A00001	2024/10/01	100
2	A00001	2024/10/01	200
3	A00001	2024/10/02	300
4	A00002	2024/10/01	300
5	A00002	2024/10/01	400
6	A00002	2024/10/01	500

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	空白が含まれるデータを文字型※でインポートします。 ※数値型、日付時刻型を選択すると空白ではなく、数値型の 場合は0、日付時刻型の場合は1900/01/01が入力される ため。	インポート画面	
2	①でインポートしたデータをダブルクリックしてテーブル画面を開き ます。	ナビゲーター画面	
3	メニューの《加工》-《補完》を選択します。	対象テーブル	操作画面1
4	「補完フィールド」に空白のレコードが含まれるフィールドを選択し ます。	補完コマンド	操作画面2
5	「その他出力フィールド」は補完フィールドで選択したフィールドを 以外に出力したフィールドを選択し「実行」をクリックします。	補完コマンド	操作画面2

■操作画面1

10 THUMGY Data	
ファイル ヘルプ 🤔-ムへ 言語設定	
プロジェクト インポート 加工 分析 サンプリング	3
1 抽出 ■ 結合 🛛 記 統合 🗐 新規フィールド追加 🗗 並べ替え	 ■ 集約 ◆ 補完
FAQ	🖍 📋 C 🧮 FAQ022 🗙

■操作画面2

						-		Х
4 地名: FAQ022			5)				
補完フィールド		フィールド選択	EOH	也出力フィールド		フィーノ	レド選択	2
🔽 フィールド名	データ型			フィールド名	データ型			
1 商品番号	С			商品番号	С			
2 日付	C			日付	С			
金額	Ν]	1	金額	Ν			
IF条件 三_十								
保存先	保存先 FAQ022_補完					5		
					キャンセル	:	実行	

【スクリプト構文】

//ファイルのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ022" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ022" STARTLINE 1 FIELD [商品番 号] C FIELD [日付] C FIELD [金額] N PIC "True" //補完コマンド実行 OPEN "FAQ022" COMPLEMENT ON [商品番号] [日付] OTHER [金額] TO "FAQ022_補完" OPEN

伝票番号に連番(明細番号)を付与したい

◇質問

伝票番号に連番(明細番号)を付与するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

《グループ集計》コマンドを利用することにより付与することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ

	伝票番号	金額	
1	10001	3,000	
2	10001	1,000	
3	10001	5,000	ſ
4	10001	4,000	l
5	10002	2,000	
6	10002	1,500	
7	10002	4,000	

・加工後テーブルのイメージ

	伝票番号	連番	金額
1	10001	1	3,000
2	10001	2	1,000
3	10001	3	5,000
4	10001	4	4,000
5	10002	1	2,000
6	10002	2	1,500
7	10002	3	4,000

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《分析》-《グループ集計》を選択します。	対象テーブル	操作画面1
3	《グループ集計》画面で下記の条件を入力し、保存先を指定し 「実行」ボタンをクリックします。 集計キーフィールド : [伝票番号] 集計フィールド : 選択しない その他出力フィールド : [金額]	グループ集計コマンド	操作画面2

■操作画面1

🦑 thumo	GY Data		\sim			
ファイル	ヘルプ	<u>7~7</u>		受定		
プロジェクト	インポート	加工	分析	サンプリング	2	
🛃 要約		クロス集	it 6	年齢調べ	Σ グループ集計	📮 エクスポート
FAQ						🖍 🖬 C
▲ ┣┓フカ	ゴト					≜

■操作画面2

🛷 グループ集計										_		Х
3 V名: FAG	Q023											
集計キーフィール	۲. ۲		フィールド選択	小計フィールド		フィールド選択	そのf	也出力フィールド		٦.	rールド選択	ł
🔽 フィールト	名	データ型		📃 フィールド名	データ型			フィールド名	デー	-9型		
1 伝票番号	크	C		金額	Ν			伝票番号	C			
金額		Ν					1	金額	Ν			
												ر
旧冬件 〓	1											
······································	1											
保存先	保存先	FAQ023_グループ1	集計									
										_9		
									キャンセル		実行	

//ファイルのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ023" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ023" STARTLINE 1 FIELD [伝票番 号] C FIELD [金額] N PIC "True"	
//連番(明細番号)を付与 OPEN "FAQ023" GROUPSUM ON [伝票番号] SUBTOTAL OTHER [金額] TO "FAQ023_グループ集計" OPEN	

商品番号ごとに連番を付加して金額を累計したい

◇質問

商品番号ごとに連番を付加して金額を累計するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

《グループ集計》コマンドを利用することにより入力することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ

・加工後テーブルのイメージ

	商品番号	日付	金額
1	A00001	2024/10/01	100
2	A00001	2024/10/02	200
3	A00001	2024/10/03	3 <mark>0</mark> 0
4	A00002	2024/10/04	3 <mark>0</mark> 0
5	A00002	2024/10/05	400
6	A00002	2024/10/06	500

	商品番号	連番	金額	集計_金額	日付
1	A00001	1	100	100	2024/10/01
2	A00001	2	200	300	2024/10/02
3	A00001	3	300	600	2024/10/03
4	A00002	1	300	300	2024/10/04
5	A00002	2	400	700	2024/10/05
6	A00002	3	500	1,200	2024/10/06

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
2	メニューの《分析》-《グループ集計》を選択します。	対象テーブル	操作画面1
3	《グループ集計》画面で下記の条件を入力し、保存先を指定し 「実行」ボタンをクリックします。 集計キーフィールド : [商品番号] 集計フィールド : [金額] その他出力フィールド : その他出力したいフィールド	グループ集計コマンド	操作画面2

■操作画面1

THUMGY Data
ファイル ヘルプ <u>ホームへ</u> (2)言語設定
プロジェクト インポート 加工 分析 サンプリング 2
愛 要約 田 クロス集計 受 年齢調べ Σ グループ集計 「ユ エクスポート
AQ 🖍 🖬 C
(🎦 7 カロプト 💧

■操作画面2

🛷 グループ集計											- 0	×
3 14名: FAC	Q024											
集計キーフィール	۴		フィールド選択	小計	フィールド		フィールド選択	FOI	也出力フィールド		フィールド選	択
🔽 フィールト	洺	データ型			フィールド名	データ型			フィールド名	データ型		
1 商品番号		С		1	金額	N			商品番号	С		
日付		D						1	日付	D		
金額		Ν							金額	Ν		
15 友 供 💻												
保存先	保存先	FAQ024_グルーフ	プ集計									
										キャンセル	実行	

//ファイルのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ024" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ024" STARTLINE 1 FIELD [商品番 号] C FIELD [日付] D PIC "yyyy/mm/dd" FIELD [金額] N PIC "True"	
//グループ集計コマンドの実行 OPEN "FAQ024" GROUPSUM ON [商品番号] SUBTOTAL ALLFIELDS OTHER [日付] TO "FAQ024_グループ集計" OPEN	

作成したスクリプトを一括で実行したい

◇質問

作成したスクリプトを一括で実行するにはどうすればよいですか?

◇回答

DO コマンドを利用することにより一括で実行することができます。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	一括で実行するためのスクリプトファイルを作成します。	ナビゲーター画面	—
2	①で作成したスクリプトに DO と記入し半角スペースを空けて 実行したいスクリプト名を入力します。	スクリプト編集画面	操作画面1
3	実行したいスクリプト毎に②の手順を実施します。	スクリプト編集画面	操作画面1
4	スクリプトの実行ボタンをクリックします。	スクリプト編集画面	操作画面1

■操作画面1

	 ●先頭から ○カーソルから ● ● ○ ○
1	
2	DO 実行したいスクリプト名 1
3	
4	DO 実行したいスクリプト名2
5	
6	DO 実行したいスクリプト名3
7	
8	DO 実行したいスクリプト名4

【スクリプト構文】

D0 実行したいスクリプト名1

D0 実行したいスクリプト名2

- D0 実行したいスクリプト名3
- DO 実行したいスクリプト名4

実行したスクリプトログのみを記録したログファイル(実施過程の記録)を作成したい

◇質問

実行したスクリプトログのみを記録したログファイル(実施過程の記録)を作成するにはどうすればよいですか?

◇回答

RENAME LOG を利用することにより作成することができます。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	記録したいスクリプトファイルを開きます。	ナビゲーター画面	—
2	スクリプトの先頭にRENAME LOG FILE "" TO "過去ログ"と 記入します。	スクリプト編集画面	操作画面1
3	スクリプトのの最後にRENAME LOG FILE "" TO "実施過 程の記録"と記入し、次の行にDELETE LOG FILE "過去ロ グ.log"と記入します。	スクリプト編集画面	操作画面1
4	スクリプトの実行ボタンをクリックします。	スクリプト編集画面	

■操作画面1



※RENAME LOG の仕組みについて

THUMGY Dataはプロジェクト名と同じログfファイルが自動で作成されます。

そのため、RENAME LOG FILE "" TO "過去ログ"を実行により、既存のログのファイル名を「過去ログ.log」に変 更し、変更後にスクリプトを実行すると、プロジェクト名と同じログファイルが自動で作成され、ファイル名の変更後に実 行されたスクリプトのログが記録されます。

RENAME LOG FILE "" TO "実施過程の記録"を実行すると、RENAME LOG FILE "" TO "過去ログ"以降にで実行されたスクリプトのみが保存されたログファイルが「実施過程の記録.log」として保存されます。

【スクリプト構文】

RENAME LOG FILE "" TO "過去ログ" RENAME LOG FILE "" TO "実施過程の記録" DELETE LOG FILE "過去ログ.log"

同じデータをランダムサンプリングした際に、同じサンプリング結果を出力したい

◇質問

同じデータをランダムサンプリングした際に、同じサンプリング結果を出力するにはどうすればよいです?

◇回答

《サンプリング》コマンドでシード値を指定することで同じサンプリング結果を出力することができます。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	サンプリング対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開 きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《サンプリング》-《サンプリング》を選択します。	対象テーブル	_
3	選択方法を「ランダム」に指定します。	サンプリングコマンド	操作画面2
4	「サンプルサイズ」と「シード値」に任意の値を指定し、『実行』を クリックします。	サンプリングコマンド	操作画面2
5	同じデータにランダムサンプリングを実行する場合、④で指定したシード値と同じシード値を入力すると④と同じデータが出力されます。	サンプリングコマンド	_

■操作画面1

🛷 サンプル		-		Х
テーブル名 :	FAQ027			
3	レコードサンプリング			
選択方法	ランダム ジガルサイズの計算			
. 4,				
サンプルサイズ	5			
シード値	1			
		4		
保存先 FAQ0	27_ランダムサンプリング			
	キャンセル		実行	



発注データにない検収データを抽出したい

◇質問

発注データにない検収データを抽出するにはどうすればよいです?

\bigcirc 回答

《結合》コマンドを利用することにより抽出することができます。

【データ加工処理イメージ】

・検収データのイメージ

・発注データのイメージ

Г

・加工後テーブルのイメージ

発注番号

11800

1

金額

10,000

	発注番号	金額
1	11669	1,000
2	11670	1,500
3	11671	2,000
4	11672	3,000
5	11673	500
6	11674	2,000
7	11800	10,000
8	11676	1,500

		発注番号	金額
	1	11669	1,000
	2	11670	1,500
	3	11671	2,000
	4	11672	3,000
	5	11673	5 <mark>0</mark> 0
		11674	2,000
******	7	11675	1,000
	8	11676	1,500

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	検収データのテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	
2	メニューの《加工》-《結合》を選択します。	検収データテーブル	_
3	「副テーブル」に発注データテーブルを選択します。	結合コマンド	操作画面1
4	結合パターンを「(4)主レコードの中で、副レコードとキーが一致 しないレコード」に設定し、発注番号フィールドを主キーフィール ドおよび副キーフィールドに設定します。	結合コマンド	操作画面1
5	主テーブルはすべてのフィールドを出力フィールドに選択し、副 テーブルは選択せずに、「実行」をクリックします。	結合コマンド	操作画面1

■操作画面1

7

4					- 0
吉合パターン ◎ (4)主レコードの中で、副レコードと	キーが一致しないレコード		3		
ブ ル名: FAQ028_検収データ			副テーブル名: FAQ028_発注データ		×
主キーフィールド		フィールド選択	副キーフィールド		フィールド選択
🔽 フィールド名	データ型		🗹 フィールド名	データ型	
1 発注番号	С		1 発注番号	С	
金額	Ν		金額	Ν	
2		フィールド選択	副テーブルの出力フィールド		フィールド選択
💌 フィールド名	データ型		□ フィールド名	データ型	
1 発注番号	С		発注番号	С	
2 金額	Ν		金額	Ν	
テーブルを対象とした絞り込み条件	=+				
					(5)
保存先 FAQ028_結合				キャンセル	実行

//検収データのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ028_発注データ" FROM "¥FAQ.xlsx" TABLE "FAQ028_発注" STARTLINE 1 FIELD [発注番号] C FIELD [金額] N PIC "True"
//発注データのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ028_検収データ" FROM "¥FAQ.xlsx" TABLE "FAQ028_検収" STARTLINE 1 FIELD [発注番号] C FIELD [金額] N PIC "True"
//結合 OPEN "FAQ028_検収データ" OPEN "FAQ028_発注データ" SECONDARY JOIN PKEY [発注番号] FIELDS ALLFIELDS SKEY [発注番号] WITH UNMATCH TO "FAQ028_結合" OPEN

実行したコマンドを一部修正して再度実行したい

◇質問

実行したコマンドを一部修正して再度実行するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

ログから実行したコマンドを呼び出すことで再度実行することができます。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	呼び出したいコマンドのログファイルをダブルクリックします。	ナビゲーター画面	操作画面1
2	呼び出したいコマンドのログをダブルクリックします。	ログ画面	操作画面1
3	コマンドの実行結果画面の「コマンド内容」をダブルクリックします。	コマンド内容画面	操作画面2
4	コマンド画面が表示されるので、修正して再度実行することがで きます。	コマンド画面	操作画面3

■操作画面1



■操作画面2

FAQ × 🗐 JOIN 2024/10/04 18:13:55	5 x					1 X
		適用されている			対象レコード数	
				<u></u> +.0		
				王·8 副:8		
実行日時	3	שאכצב	内容	ステイタス	ステイタス	詳細
2024/10/04 18:13:55	OPEN "FAQ029_検収5 OPEN "FAQ029_発注5 JOIN PKEY [発注番号]	データ" データ" SECONDAI FIELDS ALLFIELD	RY S SKEY [発注番号] WITH UNMAT(成功	1 件のレコードがあ!	Dます。
■操作画面3 (例では、実行した結合コマン	ンドを呼び出してい	います。)				
4						
11 結合					-	
結合パターン						
● (4)主レコードの中で、副レコードとキーが一致	攻しないレコード		•			
主テーブル名: FAQ029_検収データ			副テーブル名: FAQ029_発注データ			~
主キーフィールド		フィールド選択	副キーフィールド			フィールド選択
🔀 フィールド名	データ型		🔀 フィールド名	データ	9型	
1 発注番号	C		1 発注番号	С		
金額	Ν		金額	N		
主テーブルの出力フィールド		フィールド選択	」 副テーブルの出力フィールド			フィールド選択
🔀 フィールド名	データ型		■ フィールド名	データ	9型	
1 発注番号	С		発注番号	С		
2 金額	Ν		金額	Ν		
主テーブルを対象とした絞り込み条件 三十						
保存先 FAQ029_結合.hdf5					キャンセル	実行

桁数が足りない従業員番号の先頭に"0"を追加して桁数を成型したい

◇質問

桁数が足りない従業員番号の先頭に"0"を追加して桁数を成型するにはどうすればよいですか?

◇回答

〈LEADINGZEROS関数〉を利用することにより桁数を揃えることができます。

【データ加工処理イメージ】

従業員番号の正しい桁数が6桁の場合

・加工対象テーブルのイメージ

	従業員番号
1	100001
2	90001
3	9001
4	901
5	91
6	1

・加工後テ	ーブルのイメージ	
	従業員番号	FAQ030
1	100001	100001
2	90001	090001
3	9001	009001
4	901	000901
5	91	000091
6	1	000001

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
2	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	
3	初期値の 三+ をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	—
4	関数の指定画面から〈LEADINGZEROS関数〉を選択し下 記条件を指定し"0"を付加したフィールドを「文字型」で追加し ます。 文字列/数値:[従業員番号]フィールド 出力文字の長さ:6(正しい桁数)	新規フィールド追加コマンド	操作画面1

■操作画面1

UV AX AL						関数の指定	
						フィルター	
						関数名	関数の説明
					-	ABS	数式の絶対値を返します。絶対値とは、数値から符
声田可能かつく ルド		使用可能かけ	·第二			AGE	指定された日付を指定された基準日または現在のフ
	ニ 5回	DE/T1 PJ 86/4/2	()#F J			AT	文字値における部分文字列の特定の出現の開始の
ノイールト名	データ型	=	<>	AND		BETWEEN	指定された値が範囲内にあるかどうかを示す論理値
此来員田与	L					CTODT	文字または数値の日付値を日付型・日付時刻型・
		<	>	OR		DAY	指定された日付または日付時刻から日付を抽出し、
						EOMONTH	指定された日付から起算して、指定された月数だけ
		<=	>=	NOT		FIND	指定された文字列が、特定のフィールド中またはレニ
						GOMONTH	指定された日付から、指定された月数前または月数
		+	-				指定された時刻または日付時刻から時間を抽出し、
						(4)	小数点以下を切り捨てて整数にします。
		*	/			315	指定した文字列やフィールドを全角文字または半角
						LEADINGZEROS	文字列または数値の先頭にゼロを追加します。
		^	()			LENGTH	文子列に含まれている文子数で返します。
						MAICH	指定し (複数可) か検索対象ノイールト
						MAXIMUM	一致の最大値、または、一連の日付時刻
	式の検証		キャンセル	完	了	MINIMUM	一つ最小値、または、一連の日村時刻
LEADINGZEROS							- • ×
EADINGZEROS SZEROS(文字列	/数値,出力文字の長さ)						- • ×
EADINGZEROS	J/数値 , 出力文字の長さ) [従業員番号]		→ 先頭に"0"	を追加するフィ	ィールド、式、	またはリテラル値。	- • ×
LEADINGZEROS	J/数値 , 出力文字の長さ) [従業員番号] 6		✓ 先頭に"0" ✓ 出力する3	を追加するフィ 文字列の長さを	(ールド、式、 と指定します。	またはリテラル値。	
LEADINGZEROS	//数値,出力文字の長さ) (位業員番号) (6) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0	直は文字型となります。 、先頭のセロが追加 7イールドなどの、先頭列 文字分大きいため、先	 、 先頭に"0" 、 出力する3 、 される前に、文字 こぜロを必要とする 	を追加するフィ 文字列の長さを 値、および文 5フィールドを正	(ールド、式、 上指定します。 字式の結果が 現化させるた	またはリテラル値。 。 から、自動的に切り めによく利用されま	- С Х ж7блат.

【スクリプト構文】

//ファイルのインポート IMPORT EXCEL TO "FAQ030" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ030" STARTLINE 1 FIELD [従業員番 号] C //桁数を成型したフィールドを追加 OPEN "FAQ030" DEFINE FIELD [FAQ030] C POSITION 1 COMPUTED LEADINGZEROS([従業員番号],6)

利用日の翌月末(申請期限)のフィールドを作成したい

◇質問

利用日の翌月末(申請期限)のフィールドを作成するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

〈EOMONTH関数〉を利用することにより作成することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルのイメージ

・加工後テーブルのイメージ

	利用日			利用日	申請期限
1	2024/04/08		1	2024/04/08	2024/05/31
2	2024/05/29	Ň	2	2024/05/29	2024/06/30
3	2024/06/30	Ĺ	3	2024/06/30	2024/07/31
4	2024/07/01	Ŷ	4	2024/07/01	2024/08/31
5	2024/08/11		5	2024/08/11	2024/09/30
6	2024/09/22		6	2024/09/22	2024/10/31

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	_
2	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	_
3	初期値の 〓+をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	—
4	関数の指定画面から〈EOMONTH関数〉を選択し下記条件 を指定します。 日付/日付時刻:[利用日]フィールド 月数:1(翌々月末を指定したい場合は2を指定)	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
5	『式の検証』をクリックし、正しい構文であることを確認して『完了』 ボタンをクリックし、条件式に反映していることを確認します。	新規フィールド追加コマンド	—
6	《実行》のボタンをクリックして新規フィールドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	_

■操作画面1

の設定						関数の指定	
					^	フィルター	
						関数名	関数の説明
					-	ABS	数式の絶対値を返します。絶対値とは、数値から
						AGE	指定された日付を指定された基準日または現在の
2用可能なノイールト		使用可能な演	見子			AT	文字値における部分文字列の特定の出現の開始
マールド名	データ型	=	<>	AND		BETWEEN	指定された値が範囲内にあるかどうかを示す論理値
川用日	D					_ r	文字または数値の日付値を日付型・日付時刻型
		<	>	OR		(4) 'IME	日付/日付時刻/時刻の値を文字として返します。
							指定された日付または日付時刻から日付を抽出し
		<=	>=	NOT		EOMONTH	指定された日付から起算して、指定された月数だ
						FIND	指定された文字列が、特定のフィールド中またはレ
		+	-			GOMONTH	った日付から、指定された月数前または月間
						HOUR	た時刻または日付時刻から時間を抽出し
		*	/			INT	点以下を切り捨てて整数にします。
						JIS	定した文字列やフィールドを全角文字または半角
		^	0			LEADI	文字列または数値の先頭にゼロを追加します。
						LEN	文字列に含まれている文字数を返します。
							指定した文字列(複数可)が検索対象フィール
	-Bould ST		de subscrite II				一連の数値中の最大値、または、一連の日付時刻
omonth			++7/2/	完了			- • ×
COMONTH I NTH(日付/日付時	方 刻,月数)		キャノセル	完了			- • ×
EOMONTH I NTH(日付/日付時 日付/日付時刻	转刻 , 月数) [利用日]		+th/Th/	起算日となる日	日付時刻型	を指定します。	- • ×
EOMONTH NTH(日付/日付時 日付/日付時刻 月数	转刻 , 月数) [利用日] 1			売」 起算日となる日 起算日から前ま	日付時刻型または後の月	を指定します。 月の月数を指定	- C X
EOMONTH	F刻,月数) [利用日] 1	前または後の月の末	- ++/2ℓµ 	起算日となる日 起算日から前a します。	目付時刻型または後の月	送指定します。 月の月数を指定	×
EOMONTH	 病刻,月数) [利用日] 1 	†前または後の月の末 の起算日となるフィー ム日付から月末の日 すが、時刻部分は無格	+ サノセル 	実了 起算日となる日 起算日から前記 します。 はリテラル値を指	日付時刻型または後の月	を指定します。 月の月数を指定	- X



複数の金額フィールドで最高値と最安値の価格差を計算したい

◇質問

複数の金額フィールドで最高値と最安値の価格差を計算するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

〈MAXIMUM関数〉と<MINIMUM関数>を利用することにより計算することができます。

【データ加工処理イメージ】

・加工対象テーブルの	Dイメージ
------------	-------

・加工後テーブルのイメージ

	商品名	月初価格	月中価格	月末価格
1	AAA	1,000	1,200	1,400
2	BBB	1,200	600	800
3	ССС	700	1,000	300
4	DDD	1,600	1,500	1,300
5	EEE	2,300	2,800	2,600
6	FFF	180	200	200

		商品名	月初価格	月中価格	月末価格	価格差
	1	AAA	1,000	1,200	1,400	400
	2	BBB	1,200	600	800	600
\rangle	3	ССС	700	1,000	300	700
	4	DDD	1,600	1,500	1,300	300
	5	EEE	2,300	2,800	2,600	500
	6	FFF	180	200	200	20

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	加工対象のテーブルをダブルクリックしてテーブル画面を開きます。	ナビゲーター画面	—
2	メニューの《加工》-《新規フィールド追加》を選択します。 または、テーブル画面の任意の場所を右クリックして、テーブルメ ンテナンス画面を開き《新規フィールド追加》を選択します。	対象テーブル	—
3	初期値の =+をクリックし式ビルダーを開きます。	新規フィールド追加コマンド	
4	関数の指定画面から〈MAXIMUM関数〉を選択し、対象値の 入力欄にカーソルを合わせてキーボードの F2 ボタンを押して、 対象となる複数の金額フィールドを指定して式の設定へ入力し ます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
5	④で記入した式の後に、演算子の – を入力し関数の指定画 面から〈MINIMUM関数〉を選択し、対象値の入力欄にカーソ ルを合わせてキーボードの F2 ボタンを押して、対象となる複数 の金額フィールドを指定して式の設定へ入力します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面1
5	『式の検証』をクリックし、正しい構文であることを確認して『完了』 ボタンをクリックし、条件式に反映していることを確認します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2
6	《実行》のボタンをクリックして新規フィールドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	

■操作画面1

🧇 MAXIMUM		– 🗆 X		
- MAXIMUM(値1, 値2 <,	n>)			
対象値	比較する値をカンマ区切りで入力します。 入力するときにキーボードの F2 を押すと、複数のフィールドを選択できます。	カーン	ルを合わせて F2 を	クリック - ロ ×
		利用可能なフィールド		列の種類
 一連の数値中の最大値 返す値は数値型もしくば ●対象値: ・比較する値を: ・すべての値は「 ・日付時刻値は 	8、または、一連の日付時刻の値の中で最も新しい値を返します。 日付時刻堂です。 カンマ区切りで入力/選択します。 同じデータ型である必要があります。 目の世界式である必要があります。日付値、日付時刻値、時刻値を混在させて実行することはできません。	アイールド名 商品名 1 月初価格 2 月中価格 3 月末価格	データ型 C N N N	すべてのフィールド 文字型 数値型(整数) 数値型(10進数) 日付型
➢ MINIMUM MINIMUM(値1, 値2 <,	л») —	- • ×		
対象値	比較する値をカンマ区切りで入力します。 入力するときにキーボードのF2 を押すと、複数のフイールドを選択できます。	カーン	ルを合わせて F2 を	クリック
		ダ フィールド選択フィルタ− 利用可能なフィールド		— — × 列の種類
 一達の数値の最小値、 返す値は数値型もしくば ●対象値: ・比較する値は ・まべての値は ・日付時刻値は 	または一連の日時値の最新値を返します。 は日付時刻型です。 カンマ区切りで入力/選択します。 同じデータ型である必要があります。 頃に置れてある必要があります。日付値、日付時刻値、時刻値を混在させて実行することはできません。	アイールド名 商品名 1 月初価格 2 月中価格 3 月末価格	データ型 C N N N	すべてのフィールド 文字型 数値型(整数) 数値型(10)進数) 日付型

■操作画面2



```
//ファイルのインポート

IMPORT EXCEL TO "FAQ032" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ032" STARTLINE 1 FIELD [商品名]

C FIELD [月初価格] N PIC "True" FIELD [月中価格] N PIC "True" FIELD [月末価格] N PIC

"True"

//価格差フィールドの追加

OPEN "FAQ032"

DEFINE FIELD [価格差] N PIC "True" POSITION 4 COMPUTED

MAXIMUM([月初価格],[月中価格],[月末価格]) - MINIMUM([月初価格],[月中価格],[月末価格])
```

プロジェクトファイルを整理したい ~インポート編~

◇質問

プロジェクトファイルを整理するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

全てのフィールドを文字型でインポートすることによりインポートスクリプトが整理されます。

【整理されたスクリプトのインポートスクリプトのイメージ】

フィールドのデータ型を項目ごとに指定した場合のログ

	•	•	×
1 2 IMPORT EXCEL TO "FAQ033_インポート" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ033" STARTLINE 1 FIELD [売上番号] C FIELD [計上日] D P? "yyyyy/mm/dd" FIELD [商品No] C FIELD [数量] N PIC "True" FIELD [仕入単価] N PIC "True" FIELD [販売単価] N PIC "True" FIELD [金額] N PIC "True" FIELD [営業担当者] C FIELD [入力担当者] C FIELD [入力日時] D PIC "yyyy/mm/dd hh:mm:ss" FIEL [COLUMN4] C FIELD [COLUMN2] C FIELD [COLUMN3] C FIELD [COLUMN4] C FIELD [COLUMN5] C FIELD [COLUMN6] C FIELD [COLUMN4] C C FIELD [COLUMN8] C FIELD [COLUMN9] C FIELD [COLUMN16] C FIELD [COLUMN11] C FIELD [COLUMN12] C FIELD [COLUMN13] C	IC .D N7]	

全てのフィールドを文字型でインポートを指定してインポートした場合のログ

	• ×										×	2033	FAQ	FA	₿F/
			►		ÞI		から	から ソルか)先頭か カーソ		2				•
1												1			
2 IMPORT EXCEL TO "FAQ033_インポート" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ033" STARTLINE 1 ALLCHAR ALLFIELDS		DRT EXCEL TO "FAQ033_インポート" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ03	FAÇ	"F.	то '	тс	EL 1	XCEL	RT EX	MPOR	11	2			

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	インポートのデータ型設定画面で「全てのデータ型を文字型に 変換する。」をチェックをしてインポートします。	インポート画面	操作画面1
2	インポートのログのフィールド指定がALLCHAR ALLFIEDSとし てログが記録されます。	スクリプト作成画面	—
3	数値型・日付時刻型で分析に必要な項目のデータ型を変換 するために、新規フィールド追加で数値型・日付時刻型のフィー ルドを追加します。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2

■操作画面1

🛷 ファイルインポート(フィールドプロパティ設定)													_		×	
ጋァイル名	FAQ.>	FAQ.xlsx				シート名			FAQ033							
テータ型		文字型	•	文字型 •	文字型	•	文字型	-	文字	밑 -	文字型	•	文字型	•	文字型	
書式設定																l
フィールド名	1	売上番号		計上日	商品No		数量		仕入	単価	販売単価		金額		営業担	
	2	11509		2017/01/30	30202001		4		801		2800		11200		38	I
	3	11510		2017/01/01	30604002		5		1092		5000		25000		38	I
	4	11511		2017/01/01	30103006		55		734		3000		165000		52	I
✓ 全てのデータ型を文字型に変換する。	5	11512		2017/01/02	30105002		36		161		680		24480		45	I
	6	11513		2017/01/02	30202004		3		534		1800		5400		21	

■操作画面2

例では、文字型の計上日を日付時刻型へ変換するための新規フィールド追加の画面

 (3) ルド追加 			-			
ア-ル-高 FAQ033 12ポート フィールド名 計上日日村時刻型 デーク型 日付時刻型 ・	<i>μ</i> = -10 (1)=+1/2					
書式設定 yyyy/mn/dd 初期値	テーブル名	FAQ03	3_インポート		3	
[st_L1]	テータ型		文字型 🔹	文字型・	日付時刻型	文字型
条件式	書式設定				yyyy/mm/dd 🔹	
通用順 条件	フィールド名		売上番号	計上日	計上日_日付時刻型	商品No
E	*	1	11509	2017/01/30	2017/01/30	30202001
	新規フィールド追加	2	11510	2017/01/01	2017/01/01	30604002
		3	11511	2017/01/01	2017/01/01	30103006
	追加フィールド編集	4	11512	2017/01/02	2017/01/02	30105002
	1	5	11513	2017/01/02	2017/01/02	30202004
		6	11514	2017/01/04	2017/01/04	30104002
		7	11515	2017/01/05	2017/01/05	30301012
		8	11516	2017/01/05	2017/01/05	30301001
		9	11517	2017/01/05	2017/01/05	30301003
		10	11518	2017/01/06	2017/01/06	30103004
		11	11519	2017/01/06	2017/01/06	30103003
		the second se				

【全てのデータ型を文字型でインポートするメリット】

- ▶ 全てのデータ型を文字型に指定して全てのフィールドをインポートすることにより、データ項目が増減・フィールド 名が一部変更になっても、スクリプトを変更せずにインポーすることができます。
- ▶ ログのフィールド指定が「ALLCHAR ALLFIELDS」となり、インポートのログが整理されます。 (操作画面2を参照)

【全てのデータ型を文字型でインポートする際の注意点】

- ▶ 事後の処理で数値型や日付時刻型で処理する場合には新規フィールド追加で数値型・日付時刻型でフィールドを追加する必要がございます。(操作画面3を参照)
- > 数値型や日付時刻型で追加するフィールドが多い場合は、データ型を指定することを推奨します。

```
//全てのフィールドを文字型でインポート
IMPORT EXCEL TO "FAQ033_インポート" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ033" STARTLINE 1 ALLCHAR
ALLFIELDS
//日付時刻型へ変換
OPEN "FAQ033_インポート"
DEFINE FIELD [計上日_日付時刻型] D PIC "yyyy/mm/dd" POSITION 2 COMPUTED
[計上日]
```
プロジェクトファイルを整理したい ~テーブル作成編~

◇質問

プロジェクトファイルを整理するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

テーブルの命名規則を策定し、テーブルの種類ごとに保存するフォルダを指定することにより整理されます。

【整理されたテーブルのイメージ】

🛷 THUMGY Data	
ファイル ヘルプ <u>ホームヘ</u> 言語設定	
プロジェクト インポート 加工 分析 サンプリング	
「直抽出 💷 結合 🔤 統合 🗐 新規フィールド追加	日4 並べ替え ■ 集約 ※ 補完 ● あいまい重複
FAQ	G 🖪 C
▶ 🗖 スクリプト	
▶ 🗖 ログ	
▶ 🗖 ソースファイル	
→ テーブル	
▲ 🖻 A_インポートファイル	
■ A005_売上データ上期	
▲ 🗁 K_結果	
田 K005_異常な販売単価	
▲ 🗁 ₩_作業	
翻 W005_標準偏差	
■ W010_標準偏差結合	

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	テーブルの命名規則を策定します。		命名規則
2	テーブルをクリックし、①で策定したテーブルの命名規則に従い、 テーブルの種類ごとに保存するフォルダをテーブルフォルダ直下に 作成します。	ナビゲーター画面	操作画面1
3	テーブルの種類ごとに、作成するテーブルを保存するフォルダを 指定します。	テーブル指定画面	操作画面2
4	テーブルが整理されて保存されます。	ナビゲーター画面	整理された テーブルの イメージ

■命名規則

命名規則の例示は下記のとおりです。



■操作画面1

🛷 THUMGY Data	
ファイル ヘルプ <u>ホームヘ</u> 言語設定	
プロジェクト インポート 加工 分析 サンプリング	
1 ファイルインボート 🛅 フォルダインボート	2
FAQ	
▶ □ スクリプト	新規フォルダを作成
🔺 🛅 ログ	
FAQ.	
🔺 🚞 ソースファイル	
■ FAQ_マスターファイル.xlsx	
I FAQ.xlsx	
🖉 🖻 テーブル	
□ A_インポートファイル	
► K_結果	
□ ₩_作業	
► T172ポート	

■操作画面2

例では、インポートしたテーブルの保存先を「04_table」>「A_インポートファイル」フォルダに指定

7		×
(3) KAQ > 04_table > A_インボートファイル	✓ C A_1ンポ・	-トファイルの検索 🏾 👂
フォルダー		≣ • ③
名前	更新目時	種類
検索条件に SeiBiz	二一致する項目はありません。	
I: A005_売上データ上期		~
): カスタム タイプ ファイル(*.hdf5)		~

ログは下記のとおり記録されます



プロジェクトファイルを整理したい ~スクリプト作成編~

◇質問

プロジェクトファイルを整理するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

処理の手順と種類ごとにスクリプトを分けて作成することにより整理されます。

【整理されたスクリプトのイメージ】

// THUMGY Data
ファイル ヘルプ <u>ホームへ</u> 言語設定
プロジェクト インポート 加工 分析 サンプリング
□ 新規プロジェクトを作成
FAQ035
▲ ■ スクリプト スクリプトの作成
『 S005_インポート
『 S010_事前準備
『 S015_加工処理
▶ 🗖 ログ
ニン ソースファイル
■ テーブル
▶ エクスポート

> スクリプト名を "S●●●(番号)_処理内容" と指定することにより手順の順番に整理されます。 イメージでは"S005_インポート"⇒"S010_事前準備"⇒"S015_加工処理"の順番に整理しています。

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	スクリプトをクリックし、「スクリプトの作成」から処理の手順と種類 ごとにスクリプトを作成します。	ナビゲーター画面	整理された スクリプトの イメージ
2	加工処理したログを手続の手順と種類ごとに対応するスクリプト にコピーして貼り付けます。	スクリプト作成画面	—
3	全てのスクリプトを一度に実行するスクリプトを作成します。 (詳細はFAQ025を参照)	新規フィールド追加コマンド	操作画面2

■操作画面2

🖗 THUMGY Data	
ファイル ヘルプ <u>ホームへ</u> 言語設定	
プロジェクト インポート 加工 分析 サンプリング	
□ 新規プロジェクトを作成 □ 新規プロジェクトを作成 □ ドキュ	x>>
3 ⁵ ■ I C	₽ 5000 ALL ×
3 スクリプト	
☐ S000_ALL	BENAME LOG FILE "" TO "実施過程の記録"
₽ S005_インポート	2
『 S010_事前準備	3 DO S005_インポート
『 S015_加工処理	4
¹ ログ	5 DO 5010_争刖卒佣 6
□ ソースファイル	7 DO S015_加工処理
□ テーブル	8
□ エクスポート	9 RENAME LOG FILE "" TO "実施過程の記録"

> スクリプトの最初と最後にRENAME LOG FILE "" TO "実施過程の記録"と記入することにより、実行したスクリプトのみを記録したログファイル(実施過程の記録)を作成することができます。

(RENAME LOG FILEの仕組みの詳細はFAQ026を参照)

【スクリプト構文】

RENAME LOG FILE "" TO "実施過程の記録"
D0 S005_インポート
D0 S010_事前準備
DO S015_加工処理
RENAME LOG FILE "" TO "実施過程の記録"

スクリプトのコメント行を構造化したドキュメントファイルを出力したい

◇質問

スクリプトのコメント行を構造化したドキュメントファイルを出力するにはどうすればよいですか?

\bigcirc 回答

《ドキュメント》コマンドを利用することにより出力することができます。

【データ加工処理イメージ】

・対象スクリプトのイメージ

//S*
//H*販売単価が異常な取引を抽出する
//N*1
//I*売上データ上期・下期
//P*フォルダインポート
//0*売上データ通期
//T*デモデータ
//E*
IMPORT EXCEL TO "A_インポートファイル¥A005_売上データ" FROM "FAQ.xlsx" TABLE "FAQ036"
STARTLINE 1 ALLCHAR ALLFIELDS
//S*
//H*
//N*2
//エ*売上データ通期
//P*商品Noごとに要約
//0*偏差值
//T*
//=*
// [

・出力されるドキュメントのイメージ

	A	В	С	D	E	F	G
1	スクリプト名:	FAQ036					
2	レポート作成日時:	2025/01/14 15:41:15					
3	レポート作成者ユーザID:	72TNYZYMA					
4							
5	スクリプト名	分析シナリオ	番号	対象データ(インプット)	処理内容	作成データ(アウトプット)	備考
6	FAQ036	販売単価が異常な取引を抽出する	1	売上データ上期・下期	フォルダインポート	売上データ通期	デモデータ
7	FAQ036		2	売上データ通期	商品Noごとに要約	偏差値	

※ドキュメントコマンドの詳細は「機能説明書」>「ドキュメント」を参照

https://thumgy-data.com/files/manual/manual_index.files/170_036.pdf

【操作手順】

番号	操作手順	操作対象画面	参照
1	スクリプトの編集画面を開き、ドキュメントの編集ボタンをクリック します。	ナビゲーター画面	操作画面1
2	ドキュメントの編集画面で、コメントを入力し、《OK》のボタンをク リックすると、《ドキュメント》コマンドで出力される形式でスクリプト にコメントが挿入されます。 ※ドキュメント挿入の詳細は「機能説明書」>「スクリプトにコメ ントを挿入する」を参照 https://thumgy-data.com/files/manual_index.files/170_040.pdf	ドキュメントの挿入画面	操作画面1
3	メニューの《プロジェクト》-《ドキュメント》を選択します。 対象のスクリプトを選択し《実行》のボタンをクリックします。	ドキュメントコマンド画面	操作画面2
4	「05_export」直下に「Document」フォルダが作成され、②で 挿入したドキュメントが構造化されたドキュメントファイルが出力さ れます。	新規フィールド追加コマンド	操作画面2

■操作画面1

🗗 FAQ036 🗙	
	 ଦ୍ର୍ସ
1 2 3 4 5	ドキュメントの編集
 ユメント挿入 H: 分析シナリオ 	× 販売単価が異常な取引を抽出する
N: 番号	1 *
1: 対象データ (インブット) P: 処理内容	売上データ上期・下期 フォルダインポート
O:作成データ(アウトプット)	▼ 売上データ通期 ▼
正備考	デモデータ 2 のK キャンセル
	× ◎先頭から ○カーソルから ▶I ▶ ■ ● Q Q Q 目 //5*
2 3 4 5 6 7 8	//H*販売単価が異常な取引を抽出する //N*1 //I*売上データ上期・下期 //P*フォルダインポート //O*売上データ通期 //T*デモデータ //E*



■操作画面2

3 HUMGY Data		
ファイル ヘルプ <u>ホームヘ</u> プロジェクト インポート 加工 ・	言語設定 分析 サンプリング 3	
□ 新規プロジェクトを作成	ご 既存プロジェクトを開く ※ テーブルメンテナンス □ ドキュメント	
AQ		
> 🗖 スクリプト		
> 🛅 ログ		
> 🗖 ソースファイル	2 //H*販売単価が異常	
> 🛅 テーブル	3 //N*1 4 //T*吉トデータト期	
> 🗖 エクスポート	5 //P*フォルダインポ・	
	× ۲ □ − × ۲ × ۲ × ۲ × ۲ × ۲ × ۲ × ۲ × ۲ × ۲ ×	
3		
3/2	711万ト会 FAQ036 ・	
傷	保存先 FAQ036	
	キャンセル 実行	
L		
	# THUMGY Data	
	ファイル ヘルプ <u>ホームへ</u> 言語設定	
	プロジェクト インポート 加工 分析 サンプリング	
_	□ 新規プロジェクトを作成 戸田 既存プロジェクトを開く ステーブルメンテナンス □ ドキュメント	
_	FAQ 🖍 🖬 C 🖵 FAQ036 🗙	
		 ● 先頭から
	▶ □ □ 1	
	1 // 2 //	
	(4) 1テーブル 3 //	'N*1
	4 🗗 エクスポート 4 //	′ェ*売上データ上期
	5 //	'P*フォルダインオ
		_O*元上ナーダ通則 /〒*デモデータ
		'E*

【スクリプト構文】

//ドキュメントの作成 DOCUMENT "FAQ036" TO "FAQ036"